



岩手県教育委員会

いきる かかわる そなえる

小学校・高学年用

改訂版

改訂版発行 令和2年4月1日

発行 岩手県教育委員会

岩手県盛岡市内丸10-1 (〒020-8570)
TEL: 019-651-3111 (代表)

表紙 藤城清治: 作
「こびとのドレミファンランド」より

いきる かかわる そなえる

小学校・高学年用

改訂版



岩手県教育委員会

ありがとうの手紙 # Thank You From KAWAISHI

作詞／かまいし絆会議、下山和也 作曲・編曲／佐藤将展 協力／スマイルとうほくプロジェクト

ありがとうの言葉だけじゃ この想いは伝えきれないよ
もしも言葉に翼が生えたなら あの空の向こうへ 今すぐ届けたいよ

僕たちがまだ小さかった頃 この町に悲しみがやってきました
灯りも笑顔も失ったとき トラックに乗って 世界中の想いが届いたんだ

顔も名前もわからないけど みんなが応援してくれました
あたたかい気持ちは絆となって 釜石の町に たくさんの希望が生まれたよ

ありがとう ありがとう 何度言っても足りないよ
ありがとう ありがとう ずっとずっと忘れないよ

あなたが背中を押してくれたから 僕たちは未来へ進めるんだ
もしもこの歌あなたに届くなら あの海の向こうへ 精いっぱい歌うよ

「みなさんの想いを 僕たちは忘れません」

いつも一緒にいて励ましてくれた その笑顔と温かい手が大好きだ
悲しみ苦しみ消えないとき ともにいた仲間が 僕に勇気をあたえてくれたんだ

もしも明日会えなくなっても 笑い合える日々はきつと続くよ
いつもは恥ずかしくて言えないけど 仲良しの君に 今日こそはちゃんと伝えたいよ

ありがとう ありがとう 何度も相談に乗ってくれて
ありがとう ありがとう ずっとずっと友達だよ

ありがとうの言葉だけじゃ この想いは伝えきれないよ
もしも言葉に翼が生えたなら 君の住む町まで 今すぐ届けたいよ

「君と過ごした日々は 最高の宝物だよ」

美味しい朝ごはん いってらっしゃいの言葉 当たり前だけど当たり前じゃない毎日
たまにはけんかもするけれども 本当はいつも思ってるよ 大切な 存在だってこと

僕はまだ子供だから 感謝の袋が ちょっと小さいみたい
これまでの「ありがとう」を詰めたら 袋からあふれて どんどんあふれてこぼれちゃうよ

お母さん お父さん ありがとう いつもそばにいてくれて
おばあちゃん おじいちゃん ありがとう ずっとずっと大好きだよ

大変な時に育ててくれて 守ってくれてありがとう
照れくさくて言えないけれど 大切な家族へ いつもありがとう

「これからも一緒に 手をつないで歩いていこう」

ありがとうの言葉だけじゃ この想いは伝えきれないよ
もしも言葉に翼が生えたなら あの空の向こうへ 今すぐ届けたいよ

ありがとうの言葉だけじゃ この想いは伝えきれないよ
もしもこの歌あなたに届くなら あの海の向こうへ 精いっぱい歌うよ

「これから僕たちが 釜石の未来をつくる 一緒に」

Thank you from KAWAISHI -

この歌は、釜石市内の小中学校
全14校の児童生徒による「かまい
し絆会議」が、東日本震災でい
ただいた世界中からの支援へ感謝
の気持ちを伝える活動のひとつと
して作ったものです。

歌詞のもとになったのは、14校
の児童生徒が「大切な人への手紙」
として書いたフレーズで、1番は
震災後に想いを寄せてくれた世界
や日本中の人たち、2番は仲間や
友人、3番は家族への感謝の想い
をこめたものになっています。



いきる かかわる そなえる

小学校・高学年用 改訂版

目次

メッセージ	ありがとうの手紙	1
いきる		
1	もう一度、花いっぱい <small>ふなごし</small> の船越 <small>ふなごし</small> に —824本のサクラ—	4
2	不安 <small>ふあん</small> やいらだちをやわらげた光 —そのとき、城山公園 <small>しろやま</small> 体育館で—	6
3	川は宝物 <small>たからもの</small>	8
4	重要無形民俗文化財 <small>じゅうようむけいみんぞくぶんかざい</small> の黒森神楽 <small>くろもりかぐら</small> を伝承 <small>でんしょう</small> する	10
5	いまも花巻 <small>はなまき</small> に生きている賢治 <small>けんじ</small> さん	12
6	奥州市 <small>おうしゅう</small> から世界へとびたつた大谷翔平選手 <small>おおたにしょうへいせんしゅ</small>	13
7	さまざまな分野 <small>かつやく</small> で活躍した盛岡の先人たち	14
8	ふだんの生活に根付いている盛岡の先人教育	16
9	目に見えない「心の思い」を話してみよう	17
10	木を使ったスポーツ「クッパ」 —住田町—	18
11	地域ぐるみで運動不足解消 <small>ちいきふそくかいしょう</small>	20
かかわる		
12	仕事として「漁師 <small>りょうし</small> 」を選ぶ —夢はアクション俳優 <small>ゆめはアクション俳優</small> —	22
13	前九年合戦 <small>ぜんくねんかっせん</small> にみる奥六郡 <small>おくろくぐん</small> (岩手)の覇者 <small>はしや</small>	24
14	35年続く「ふるさと交流学習会 <small>つづ</small> 」	25
15	秀吉 <small>ひでよし</small> 、天下統一 <small>てんかとういつ</small> の最後の戦場 <small>さいごせんじょう</small> 「九戸城 <small>くのへじょう</small> 」	26
16	地域学習「平泉学 <small>ちいきがくしゅうひらいずみがく</small> 」	28
17	雪谷川 <small>ゆきや</small> とともに生きる	29
18	ホッケーの町 岩手町	30

19	海がない、津波 <small>つなみ</small> が来ない、だからこそ…… —遠野市の後方支援活動 <small>しえん</small> —	32
20	多くの人に歌声を届けたい —歌い続ける不來方高校音楽部—	34
21	エネルギー自給率350%のまち 葛巻町 <small>くずまき</small>	36
22	西和賀デザインプロジェクト「ユキノチカラ」	37
23	地域活性化プロジェクトを推進中 —北上市地域おこし協力隊—	38
24	「増しよく溝 <small>ぞう</small> 」で良質なウニを育てる	39
25	おもしろ〜ことてんこもり！元祖 <small>がんそ</small> しずくいし軽トラ市	40
26	野田村を音楽で元気にしたい —野田小学校合奏団—	41
27	沿岸部 <small>えんがん</small> のまちを、人をむすぶ —三陸鉄道 <small>さんりく</small> のたたかい—	42
28	田野畑村 <small>たのはたかたべ</small> の語り部活動	44
29	大槌町安渡町内会 <small>おおつちあんどう</small> のひ難訓練 <small>なんくんれん</small>	46
30	岩手・宮城内陸地震の学習 —巖美小学校—	47
31	津波の教訓を次世代へ、小中合同のひ難訓練 <small>つなみきょうくん</small>	48

そなえる		
32	災害 <small>さいがい</small> から大切なものを守るためには —東日本大震災津波伝承館 —いわてTSUNAMIメモリアル—	50
33	震災学習列車で知る東日本大震災 <small>しんさいだいしんさい</small>	52
34	岩手山の自然のめぐみとふん火 <small>か</small> の歴史 <small>れきし</small>	54
35	風や雨の強さと風水害 <small>ふうすいかい</small>	55
36	日本の主な自然災害 <small>しぜんさいがい</small>	56
37	大きな災害ではライフラインが止まる	58
38	正確な情報を得て、デマにまどわされない	59
39	災害に備える —戸南小学校の取組	60
40	しっかり逃げて、助かってほしい —防災紙芝居—	61
41	助けられる人から、助ける人へ —釜石東中学校・鶴住居小学校合同防災訓練—	62
42	みんなで築こう防災・減災のまち —岩泉町—	64
43	たいらっこ防災プロジェクト —災害に備え隊—	65

1 もう一度、花いっぱいの船越に

—824本のサクラ—

山田町船越地区。

この「復興さくらの丘」には、824本のサクラが植えられ、成長を続けています。

このサクラの若木には、どんな意味がこめられているのでしょうか。



みんなの協力を得てサクラを育てる

津波が往復した船越地区

山田町の船越地区にある船越公園は、チューリップやスイセンなどの花畑が広がり、公園とそれに続く船越家族旅行村はサクラの名所でした。花にあふれた、人々のいこいの場だったのです。

ところが、この公園は船越半島と町内をつなぐ低地にありました。

北に山田湾、南に船越湾。東日本大震災のとき、この地区では2つの湾から押し寄せた津波どうしがぶつかり、津波は低地を3往復したとも4往復したとも言われています。

花畑もふくめ何もかもが流され、サクラの木も無事だったのは山の斜面に立っていたものだけでした。その後、無事だった木々も、仮設住宅を建てるためにずいぶん切らざるをえなかったのです。

それでも、花いっぱいの船越をあきらめない人がいました。当時、船越家族旅行村の管理者だった藤原長一さんです。

今の子どもたちが大人になったときに

2012(平成24)年3月、藤原さんは高台にある自分の山にサクラの苗木を植えはじめました。植える目標にした苗木の数824本は、山田町で震災の犠牲となった人の数です。植える品種はじょうぶで長持ちすることから「千年桜」とも呼ばれるエドヒガンザクラにしました。

まわりの山林を所有する団体の協力もあり、植樹する面積は少しずつ広がっていき、2014(平成26)年からは町の協力も得て、草刈りなどのボランティアも集まるようになりました。

「自分一人ではなく、多くの人たちとのつながりがあったのはじめてできたこと。」と藤原さんは言います。

こうして2017(平成29)年、船越地区の海に見える約8ヘクタールの高台「復興さくらの丘」に824本のサクラの植樹が完了したのです。

「サクラの苗木を植えてからお花見ができるくらいに咲くようになるには、20年や30年かかる。そのころ自分はいないだろうが、今の子どもたちが大人になって、このサクラの木の下でお花見をしてもらえたら、それでいい。」と藤原さんは言います。



震災前の船越公園



考えてみよう・話し合ってみよう

- なぜ藤原さんは、海に見える高台に「824本」のサクラを植えたのでしょうか。
- 東日本大震災後の船越のようすを見た藤原さんは、どのようなことを考えたのか話し合ってみよう。

2 不安やいらだちをやわらげた光

—そのとき、城山公園体育館で—

自分の町が流され、焼きつくされる「ひさんな光景」を目の当たりにしても、他人を思いやる心を忘れず、人の役に立つことを考え、不安でいらだった人々の心を救った人がいます。



城山公園から見下ろした復興を続ける大槌町(2019年10月撮影)。
震災のとき、この公園に避難した人々は、どんな光景を見たのでしょうか

なぜ、自分は助かったのか

大槌町の城山公園は、町の中心部である町方地区を見下ろす高台にあり、中央公民館や体育館があります。東日本大震災のとき、城山公園体育館は避難所となりました。津波から逃れた千人をこす人々が、坂道をのぼってここに集まりました。

越田征男さんもその一人でした。

地震が起きたとき、越田さんは城山公園へ続く道と、町の中心部を走る県道の交差点近くにあった自分のお店にいました。激しいゆれがおさまってしばらくすると、県道は城山公園に避難しようとする人たちの車で渋滞しはじめました。

津波は、すぐそばにせまっていました。木造の家が流されるバリバリという音、骨組みを残して破壊される鉄骨の家。

越田さんは急いで大槌町立大槌小学校(現在の町役場)の校門わき、大槌代官所跡の石碑のある小高い場所に登り、津波から逃れました。

家屋が流されていき、どこかで爆発音がして火が燃え広がっていきます。
小学校の校庭には大きな渦ができ、車がズブズブと沈んでいきました。

「地獄の光景だったよね、あれは。」と越田さんは言います。「津波の直前に声をかけあった、うちの店の向かいにあった文房具店、設計事務所のだんなさん2人は流されて亡くなった。なぜ、自分が助かったのか。その理由はわからない。」

越田さんは石碑の場所から動くことができず、その光景を2時間ほど見続けたあと、やっと城山公園へ登っていくことができたのです。

あたたかな光が人々の心を照らした

津波から何日か後、越田さんは城山公園体育館で避難者の取りまとめ役としてみんなの世話をしていました。だれもが、不安でした。だれもが、いらいらしていました。

みんな、親しい人が亡くなり、あるいは行方が知れず、自分たちの町が津波にのまれ、その後の火災で焼きつくされるのを目の当たりにした、そのすぐ後なのです。

そうしたときに、他人同士がへだてるものもなく体育館で生活していれば、ふだんは平気なことがトラブルの種になります。明かりの問題がそうでした。

「夜になると、早く寝る人と、遅くまで起きている人が出てくる。消灯の時間でもめた。」と越田さん。避難所では、各自のペースで生活することはとても難しいのです。

越田さんは一計を案じました。釜石市に行く人に昔ながらの白熱電球を買ってきてもらい、消灯時間のあとは体育館の蛍光灯を消して、代わりにこの白熱電球をつけました。蛍光灯の白い光が、みんなをよけいにいらいらさせているのではないかと思ったのです。

「これは、いい。」とみんなが納得しました。

「昔ながらのあったかい光。ポワツとした明るさで何だか落ち着くんだよ。」と越田さんは言います。

昔ながらの白熱電球の、やや黄色い、あたたかな光は、避難してきた人々の心を照らし、不安やいらだちをやわらげたのです。

(出典:『岩手県大槌町東日本大震災記録誌 生きる証』より抜粋・再構成)



考えてみよう・話し合ってみよう

- なぜ、越田さんは、石碑の場所から動くことができなかったのでしょうか。
- 避難した人たちは、白熱電球の光を見てどんな気持ちになったか話し合ってみよう。

3 たからもの 川は宝物

朝日や夕陽に照らされてキラキラ光る川は、晴れの日には魚が泳ぎ、雨がふると水の量が増える。そんな川がみなさんの身近にありませんか。九戸村立伊保内小学校の5年生が調べました。

「川は宝物である」という内容の創作劇を発表

5年生たちは、川の水質調査をきっかけに、川と森はつながっていてどちらも宝物だということが分かり、より多くの人たちにもっと川のことを知ってもらいたいと思い創作劇を保護者や地域の方に発表しました。



創作劇を演じる5年生たち

劇を見た人たちからは「笑いや感動の中にも子どもたちが学んできたことによって、親である私たちも気づかされることが多く、最後まで子どもたちの発表に引き付けられました。」「川の精と森の精が言い争う場面で、敵対して火花を散らす感じが分かりやすく良かったです。」と感想がありました。

創作劇の一場面(ヤマドリが飛んでくる)

水3 あ、ヤマドリが飛んできた。
 水4 ヤマドリって、九戸のシンボルの鳥だね。
 水5 わー！瀬月内川の水をごくごく飲んでぞ！
 鳥1 あ～おいしいおいしい！
 鳥2 やっぱ瀬月内川の水は最高だね。
 鳥1 うん。他の川よりおいしく感じない？
 鳥2 わかるー！また来ようー！
 水6 今の、聞いた！？瀬月内川の水がおいしいうって。
 水7 もちろん！超嬉しいー！
 水8 おれたちがふだんからゴーゴーいきおいよく流れてるからだな。
 水1 いやあ…なんか照れるなあ。



瀬月内川の水がおいしいと言うヤマドリ

水質調査でわかったこと

伊保内小学校の5年生は「森林や川にかかわる活動をしていこう」と計画し、瀬月内川に住む生き物と、川の水質調査をすることにしました。水質調査とは、実際に川の水を調べることです。

その結果様々なことがわかりました。それは瀬月内川には、たくさんの生物、ナミウズムシ、カワゲラ類、ナガレトビケラ類、ヘビトンボなどが住んでいたことです。その生物たちはきれいな水にしか住まないものでした。つまり、瀬月内川はとてもきれいな川だということがわかったのです。

そこで5年生たちは、もっと川について調べていくことにしました。川の役割、川の大事さ、そして川のおそろしさなどを学び深めていきました。この川はどこへ流れていっているのか、きれいな川を保つためにはどうすればいいのだろうか、川の災害にはどんなものがあるのだろうか。川について調べたい内容は自分たちで決め、調査を続けました。



水質調査結果



川に入って生物を探す子どもたち

子どもたちの感想

- 水を今よりきれいにするには、もっとたくさんの微生物が必要だなと思いました。
- わたしたちがよごした川を微生物がきれいにしていることに感謝した。
- これからは川に住む生き物のことを考えて生きていきたい。
- 節水を心がけ、ダムや川などの環境をきれいにしたい。



生物の名前を確認するようす



考えてみよう・話し合ってみよう

- 創作劇「川は宝物である」には、どのような思いが込められているのでしょうか。
- 自分と自然とのつながりを話し合ってみよう。

4 重要無形民俗文化財の黒森神楽を伝承する

宮古市立山口小学校では地域を学ぶ学習の1つとして、黒森神楽に取り組んでいます。運動会などでひろうし、地域の人たちと楽しみながら伝承しています。



運動会で黒森神楽をひろう

黒森神楽とは

黒森神社は宮古市の北側にある、黒森山の中にあります。その名前があらわすように、昔はきよ大な木々におおわれて昼間でも暗い山だったそうです。この黒森神社で長く伝承されてきたのが黒森神楽です。正月になると「権現」とよばれる獅子頭をたずさえて各家庭を回り、その家の前で舞います。この黒森神楽は貴重であるとのことから、2006(平成18)年3月に国から重要無形民俗文化財に指定されました。

山口小学校の取組

山口小学校では1970(昭和45)年ころから黒森神楽の伝承が行われています。当時は大人が黒森神楽を伝承する活動をしており、その一人が山口小学校の地域に住んでいました。それが縁で、山口小学校の子どもたちも黒森神楽を伝承することになったのです。

かつて山口小学校では、4年生の3学期から歴史などを勉強しながら黒森神楽の練習をしていました。そして、5年生の春の運動会でひろうしてました。

東日本大震災がおこったとき、山口小学校の体育館が避難所になり、地域の方々に運営などを協力してもらいました。その感謝の気持ちを伝えるにはどうすればよいか。

それには児童たちのおどり、つまり黒森神楽を地域の人たちに見てもらおうことがいいのではないかと。そう考えて、東日本大震災から3年がたったころ、全校児童で行うことになりました。

運動会直前になると、黒森神楽衆の方に小学校にきてもらい、神楽のけいこをします。そして本番ではこの黒森神楽衆が演奏してくれます。

運動会には保護者だけではなく地域の人たちも来ます。運動会当日、1年生と2年生は



黒森神楽の歴史を学ぶ

かけ声で参加、3年生から6年生は全員でおどります。5年生と6年生は衣装を身に着けておどるので、この衣装の着付けを地域の人や保護者たちが協力してくれます。黒森神楽はとても盛り上がり、「子どもたちが黒森神楽をおどっているのを見ると、なみだが出る。」と語る人もいます。



黒森神楽衆の演奏

伝承部

運動会でひろうすることは別に伝承部があります。

伝承部のメンバーは自分から黒森神楽に興味を持って入部します。およそ20名で活動しており、週2回、朝の時間帯に練習しています。運動会以外に夏祭りや収かく祭などのイベントでもひろうしています。伝承部の副部長さんは「見ている人が感動するように美しくおどることを大切にしてきました。動きをみんなでそろえるところがすごくきれいです。」と言います。

黒森神楽の魅力

黒森神楽で気をつけていること、それは笑顔でおどることです。黒森神楽の練習は、まずは動きや順番から覚えなければなりません。おどりが小さくなってはいけません。失敗をおそれて小さくおどるよりも、自信があるところは思いっきり大きくおどるように心がけています。細かい動きにとらわれず、笑顔でおどる！そうすれば、見ている人も楽しい気持ちになります。

外国船が入港したときにはその入港セレモニーでおどり、外国の人々に見てもらいました。「いっしょに写真にとらせて。」とたのまれたこともありました。



「大きなおどり」を心がける



入港セレモニーでおどる



考えてみよう・調べてみよう

- なぜ、山口小学校の子どもたちは、感謝の気持ちを伝えるために黒森神楽をえらんだのでしょうか。
- 岩手県で重要無形文化財に指定されている団体等を調べてみよう。

5 いまも花巻に生きている賢治さん

詩人、作家、教師、科学者、農業指導者、いろいろな顔を持つ宮沢賢治は37歳の若さで亡くなってしまいました。しかし、その功績は大きく、花巻では「賢治さん」と呼ばれ、親しまれています。



(資料提供：林風社)

花巻で生まれ、花巻で暮らす

宮沢賢治は、1896(明治29)年、花巻川口町(今の花巻市)に生まれました。1921(大正10)年、稗貫郡立稗貫農学校(今の花巻農業高校)の教師になりましたが、「百姓をやる。」と宣言して1926(大正15)年3月、農学校教師を辞め、羅須地人協会を設立しました。その後、農業指導を中心に活動しますが、1933(昭和8)年に、肺炎により永眠しました。

この間、賢治が活躍したのは農業だけでなく、科学、音楽、宇宙、宗教の分野など様々で、作家・詩人としては「銀河鉄道の夜」「注文の多い料理店」「セロ弾きのゴーシュ」「雨二モマケズ」など今も愛されている作品を残しています。



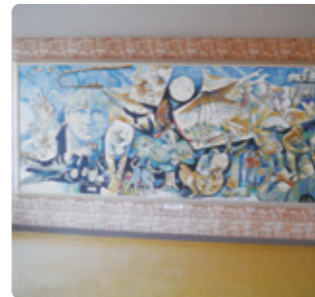
賢治がかつて教師を務めた、今の花巻農業高校



「猫の事務所」が出迎える宮沢賢治記念館

母校・花巻小学校での「賢治さん」

花巻小学校でも賢治は「賢治さん」と呼ばれ、先輩のように親しまれています。ホールには「賢治の世界」と題された大きな絵が飾られ、2階には「星めぐり館」と名付けられた賢治に関する資料館があります。こういう環境で花巻小学校の子どもたちは日々賢治に触れ、毎年秋には「賢治集会」を開き、賢治の作品を演劇で表現したり、朗読したりしています。



飾られている「賢治の世界」



賢治にふれる「賢治集会」



話し合ってみよう

●「賢治さん」と呼ばれ、親しまれているのはどうしてか、話し合ってみよう。

6 奥州市から世界へとびたつた大谷翔平選手

メジャーリーグで活躍中の大谷翔平選手は奥州市出身です。小学生時代から野球に打ち込み、夢をかなえつつある大谷選手の歩みを振り返ります。

メジャーリーグでも二刀流で活躍する

①メジャーリーガーまでの道のり

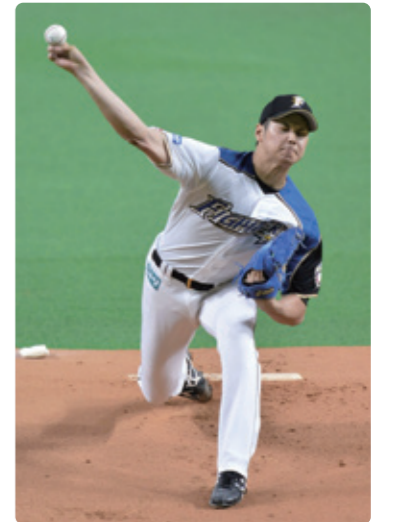
大谷選手は奥州市立姉体小学校2年生のとき、水沢リトルリーグに入って野球を始めました。2010(平成22)年、菊池雄星選手にあこがれて花巻東高校へ進学し、高校3年生のときにはアマチュア野球史上初となる球速160km/hを記録しました。

そして2013(平成25)年、日本ハムファイターズに入団してプロ野球選手となります。初年度からピッチャー、バッターの二刀流で活躍し、2017(平成29)年12月、ロサンゼルス・エンゼルスと契約し、ついにメジャーリーガーとなりました。

②二刀流をつらぬく強い意志

大谷選手がロサンゼルス・エンゼルスを選んだのには訳があります。入団を決定する前、大谷選手はメジャーリーグ全球団に対してアンケートを行いました。その結果、二刀流として自分を育てることに最適のチームがロサンゼルス・エンゼルスであると判断したのです。

大谷選手は2018(平成30)年9月に右ひじじん帯再建手術を受け、2019(令和元)年はバッターに専念しました。リハビリを終え、2020(令和2)年からは二刀流としてプレイすることになっています。二刀流で復活し、ベーブ・ルースが1918年につくった記録、13勝11本塁打をぬりかえることができるのか。日本のみならず、世界の多くの人々が期待しています。



日本ハムファイターズ時代の大谷選手。球速162km/hを記録



メジャーリーグの試合での豪快なスイング



話し合ってみよう

●何かに挑戦するとき、大切にしたいことを話し合ってみよう。

7 さまざまな分野で活躍した盛岡の先人たち

下の写真の人たちを知っていますか。全員盛岡市出身で、岩手県のみならず日本や世界で活躍した人たちです。盛岡市では、このような人たちに学ぶ「先人教育」を積極的に推進しています。

盛岡を代表する5人の活躍

原敬：1856(安政3)年、岩手郡本宮村(現在の盛岡市本宮)生まれ。新聞記者や外交官として活躍した後政治家になり、藩閥政治をきらい、政党政治を目指しました。

1918(大正7)年、62歳のときに内閣総理大臣となり、本格的な政党内閣を組織しました。しかし、1921(大正10)年11月、東京駅で暗殺されてしまいました。

新渡戸稲造：1862(文久2)年、盛岡城下鷹匠小路(現在の盛岡市下ノ橋町)生まれ。教育者であり、人格教育に取り組みました。国際連盟の事務次長としても活躍し、英語で書いた『武士道』は各国語に翻訳され、今も読みつがれています。

米内光政：1880(明治13)年、南岩手郡三ツ割村(現在の盛岡市愛宕町)生まれ。日露戦争に海軍中尉として従軍し、海軍大臣を経て、1940(昭和15)年内閣総理大臣になりました。

金田一京助：1882(明治15)年、南岩手郡四ツ家町(現在の盛岡市本町通)生まれ。東京帝国大学時代にアイヌ語に興味をもち、研究し、アイヌ叙事詩「ユーカラ」を世に紹介しました。言語学者、アイヌ語研究学者として活躍しました。

石川啄木：1886(明治19)年、南岩手郡日戸村(現在の盛岡市日戸)生まれ。明治時代に活躍した詩人・歌人。苦しい生活の中でも創作活動を続け、『一握の砂』『悲しき玩具』などの歌集が有名です。肺結核で26歳の若さで亡くなりました。



原敬



新渡戸稲造



米内光政



金田一京助



石川啄木

3つの記念館

盛岡市には先人たちをしょうかいする記念館が3館あります。先人教育をささえる施設でもあり、小中学校に出向いて出前授業も実施しています。

①**盛岡市先人記念館**：明治期以降に活躍した盛岡にゆかりある先人130人がしょうかいされています。新渡戸稲造・米内光政・金田一京助の三人については特別に記念室で活躍した様子をくわしく展示しています。



原敬記念館



原敬記念館で学習中の山岸小学校の子どもたち



石川啄木記念館



先人記念館

②**原敬記念館**：平民宰相と呼ばれた原敬の資料を展示しているほか、生家も保存されていて見学できます。原敬日記83冊や暗殺される当日まで書かれた絶筆メモ、暗殺されたときの洋服なども保存されています。

③**石川啄木記念館**：啄木が家族とともに幼少を過ごした渋民に石川啄木記念館があり、直筆書簡、ノート、日誌、遺品、写真パネル等が展示されています。敷地内には啄木が代用教員を務めた旧渋民尋常高等小学校や家族で間借りした旧齊藤家が移築されていて、当時の様子を知ることができます。

原敬記念館で学習して

(山岸小学校のお礼の手紙より)

- 私は先人ウォークで学んだことが3つあります。1つ目は、自分の道を切り開いていくことです。2つ目は、家族や友人を大切に、盛岡市のふるさとを思う気持ちです。3つ目は、「宝積」という、見返りを求めない人の心です。
- ぼくがずっと気になっていた原敬日記をはじめて見ることができました。原敬さんが46年間も書きつづけた日記から、原敬さんの心そのものを知ることができると思いました。



調べてみよう

- あなたの住んでいる地域にある記念館、資料館等ではどのようなことを学べるか調べてみよう。
- あなたの住んでいる地域の先人について調べてみよう。

8 8 ふだんの生活に根付いている盛岡の先人教育

盛岡市では、「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」、
「目標に向かって努力する心」をはぐくむことを目標に先人
教育を行っています。



総理大臣になったときの原敬

「宝積」を实践 本宮小学校

本宮小学校では、子どもたちが自主的にあいさつ運動を行っ
ています。それだけでなく、春はサクラの葉のそうじ、秋は
かれ葉のそうじ、冬は雪かきなどもします。

これらの活動は「宝積活動」と呼ばれています。「宝積」は「人
に尽くして見返りを求めない」という意味の仏教用語で、平民
宰相と呼ばれた原敬が心がけ、実践してきた言葉です。原敬
が本宮村の生まれであることから、「宝積」は校訓となり、原
敬を尊敬する子どもたちは自然と宝積活動を行っているのです。



子どもたちの「宝積活動」

日常に啄木の歌がある 渋民小学校

ふるさとの山に向ひて言ふことなし ふるさとの山はありがたきかな

石川啄木の「ふるさとの山に向ひて」という歌に基づいて、
歌手の新井満さんが歌っている歌詞です。そしてこの歌を
渋民小学校の4年生が盛岡市の連合音楽会で歌うことが伝
統となっています。

渋民小学校は、石川啄木が卒業し、代用教員として一
年間勤めた学校です。自分たちの先輩であり、先生でもあつ
た啄木の作った歌に毎日親しんでいます。また、啄木の歌
は「啄木かるた」というカルタにもなっており、毎年3年生
以上が参加して体育館でカルタ大会を行っています。



啄木祭での演奏



カルタ大会

考えてみよう

- あなたの目標としている人は、どのような生き方をした人ですか。

9 9 目に見えない「心の思い」を話してみよう

みなさん、「心」ってどこにあるのでしょうか。「心」は人の目には見えず、ふわふ
わしていて、あなたの心はこうだ、私の心はこうだと言葉にしたり、決めたりする
ことも難しいのです。

自分を見つめることは、心を見つめること

いつもとちがう事がおきたとき、「心は、今どう感じているだろうか。」と、自分に問い
かけてみてください。「つらいなあ。」と感じたときに、「がんばりが足りないから。」と考
えてしまうと、ますます自分を追い込んでしまいます。「つらい。」と思うにはそれなりの理
由があり、そう思うことは「良くなるう。」とあなたの心ががんばっている証です。「本当に
これでいいの。」「自分はどうしたいの。」と、自分の心を正直に見つめることが大切です。

自分の気持ちを、言葉にしてみよう

みなさんは、「感情を出す」ことはいけないこ
とだと思いませんか。自己中心的なことだと思
いませんか。本当は「いやだ」と思っていることを言
えずに、いつも言葉を飲み込んでいると、心の中
に否定的な感情が生まれ、心がとじてしまい、
心とからだの健康をそこないます。

自分の気持ちを、言葉にしてみてください。「な
ぜ、つらかったのか。」「なぜ、悲しかったのか。」
を信頼できる人に話してみてください。話す相
手は親でも先生でも友だちでも信頼できると思う人なら誰でもいいのです。心に思った感情を、
言葉にしてみましょう。「感情を言葉にする」ことは、心とからだの健康を保つ、とてもいい方法です。



考えてみよう・やってみよう

- 近くで泣いている人がいたら、あなたはどのように考え、行動しますか。
- 自分の気持ちをだれかに話してみよう。

10 木を使ったスポーツ「クubb」

——住田町——

住田町では木製の道具を使ったスポーツ「クubb」がさかんです。「クubb」は子どもからお年寄りまで気軽に楽しめるニュースポーツです。どんなスポーツなのでしょう。

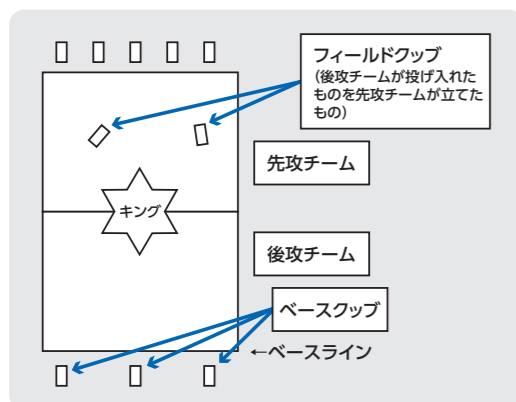
クubbってどんなスポーツ？

「クubb(KUBB)」は丸太を投げ当てて楽しむスウェーデンの生まれのスポーツです。クubbはスウェーデン語で「薪」を意味し、使う道具はすべて「木製」です。昔、どの家の軒下にも薪があり、その薪をつかって遊びが生み出されたのが起源といわれています。



みんなで楽しく、クubbで町おこし

クubbは、緑の草原や海岸など平らな場所で行われます。1チーム6人(1~10人くらい可)で、2チームで勝負します。まず、両チーム5個ずつのクubb(角材)を自分たちのコートのベースラインに並べ、先攻後攻を決めます。先攻チームは6本のキャストピンナ(丸棒)を投げて、相手コートのクubbをたおします。一人ずつ順番に6本投げます。後攻チームは、先攻に倒されたクubbを相手コートに投げ入れます(フィールドクubb)。そのフィールドクubbは先攻チームが立てます。後攻チームは、まずフィールドクubbを全部倒し、そのあとベースクubbを倒します。これを両チーム交互に行います。全部、クubbを倒したらキングを倒せます。先にキングを倒したチームの勝ちです。



クubbのフィールド

クubbを通じて広がる人の輪

住田町は町の面積の約90%が森林で、「森林・林業日本一のまちづくり」を目指しています。

木を使ったスポーツ「クubb」はそんな住田町にぴったりのスポーツです。もちろん、クubbで使用する木は全て住田町産。環境に配慮した森林から伐採した木材を使用し、町内で加工しています。クubbの試合は、町のお祭りや夏休みのイベントなどでも行われ、子どもからお年寄りまでみんなに親しまれています。

毎年、春には町内の大会、秋には全国大会が行われます。2016(平成28)年の岩手国体ではデモンストレーション競技としてクubbが行われ、木を使っただれでも気軽に楽しめるスポーツとして全国に紹介されました。

2019(令和元)年5月、県内外から21チームが集まり、住田町の運動公園野球場でクubb大会が開かれました。晴天の中、試合が始まると、野球場には木と木がぶつかる音や参加者の歓声が響き渡りました。クubbをたおしたときにメンバー同士でハイタッチしたり、相手チームをたたえて拍手したりするのもクubbならではのほほえましい光景です。

クubb競技はだれでもできるので、世代や地域をこえていろいろな人と楽しく交流することができます。自然の木を活用したスポーツ「クubb」を広めることで、より多くの人が住田町の森林や林業に関心をもってもらえるのではないかと、住田町では期待しています。



住田町でつくられたクubbのセット



子どもから高齢者まで楽しめるスポーツ



考えてみよう・話し合ってみよう

- 住田町で盛んにおこなわれている「クubb」は、どんなよさがあるのでしょうか。
- 地域の人たちと一緒に取り組むことのできるスポーツは何か話し合ってみよう。

11 ちいぎ 地域ぐるみで運動不足解消 ぶそくかいしょう

西和賀町の沢内小学校と湯田小学校は、運動不足解消に取り組んでいます。その効果が評価され、沢内小学校は2017(平成29)年度に、湯田小学校は2018(平成30)年度に全国学校体育研究最優秀校(文部科学大臣賞)に選ばれています。

運動を習慣にする！

西和賀町では、学校の統合などにより、子どもたちの多くが遠くから通い、スクールバスやスクールタクシーで通学しています。また、学区が広く放課後に友達同士で遊んだり、体を動かしたりすることもあまりできません。このような状況のため、運動不足の子どもたちが多くなってきました。

そこで先生たちは、運動を習慣にする、体育の授業で子どもたちが進んで運動したくなるように考え、取り組みました。

どんなことをしたの！

みんなでくふうしたのは、次のようなことです。



大根ぬき



ステップふんで楽しく登校



ミニハードルとラダー

登校時には、校門から昇降口までの通路にステップ用の輪やミニハードルを並べ、ステップをふむ活動や跳び越える運動をしながら登校するようにしました。

さらに始業前までの時間には、校庭ではラダーやミニハードル、体育館ではバスケット

ボールや平均台などを使い、楽しく進んで運動できるようにしました。

休み時間には、ラジオ体操大会やなわ跳び大会、雑きんりレー、全校おにごっこなど、縦割り班のよさを生かして高学年が低学年に教える学び合い活動の場を設けました。

体育の授業では、用具や行う場所もくふうし、たっぷり運動できるようにしました。先生の言葉かけもわかりやすく、明るく楽しいものを心がけました。

また、保育園(保育所)、小学校、中学校、高校の先生が集まって定期的に学習会を開き、ちいぎとして体育の授業力の向上に取り組みました。

日中は光をたくさん浴び、生体リズムを整えるために外で遊び、夜はぐっすり眠るために部屋を暗闇にする「光・暗闇・外遊び」が家庭での合言葉です。「光・暗闇・外遊び」を実践してもらうために、学校だよりや保健だより、懇談会などで伝え続けました。



体育の時間も主体的に楽しく！

年々、運動不足解消

学校での運動のしかたがわかり、運動が好きになることで運動量が増し、達成感が増しました。また、「光・暗闇・外遊び」を合言葉に各家庭と連携することで「早寝・早起き」がしんとうし、生活習慣も安定してきました。

その結果、湯田小学校での肥満傾向は減少しました。



考えてみよう・やってみよう

- あなたは、運動不足にならないためにどんな運動をしていますか。
- 自分たちで工夫した運動をやってみよう。

12 仕事として「漁師」を選ぶ

りょうし えら
ゆめ はいゆう
夢はアクション俳優

ワカメ養しょく発しょうの地、大船渡市末崎町。東日本大震災では養しょく施設をはじめとした漁業施設も被災し、それを機に漁師をやめる人が多く出ました。ワカメ養しょくを手がける人は震災前の3分の2以下にへったといひます。

その末崎町で、新たに漁業に関わろうとする人がいます。滝田明仁さんはその一人です。

あとつぎではない漁師



自分の船をあやつって海に出る滝田さん



滝田明仁さん



養しょくしたワカメと滝田さん

2018(平成30)年4月からワカメ養しょくと採貝・そう漁業を始めた新人漁師の滝田さんは、アクション俳優を目指し、専門学校卒業後、日光江戸村で、殺陣や侍の所作、忍者

のアクションを学びました。2003(平成15)年には映画『ラストサムライ』に出演、殺陣の指導をきっかけに舞台演劇にも出演していたのです。

痛めた腰のリハビリで末崎町の実家にいたときに東日本大震災で被災し、避難所生活を経験しました。このときも「流された実家から真っ先に救い出したのは殺陣で使う刀と衣装だった。」と、アクション俳優への思いは変わりませんでした。

「仕事」として漁師を選んだきっかけは、まわりの人々の協力の積み重ねだったといひます。

「最初に『漁師をやる』と言ったとき、両親はまったく本気にしてくれなかった。」と笑う滝田さん。近所の漁師さんや祖父の友人に教わりながらのスタートでした。

いつか主演の映画を

「海の上で安全に作業するためには、慎重に判断し、めんどろでも雑にしないことが大事。自分は臆病な性格だし新人なのでそうしているが、祖父も自分と同じだったのじゃないか。」亡き祖父について、滝田さんはときどき考えます。

最初は海に出るだけでわくわくしていましたが、漁師になって2年が経とうとしている最近、漁業の面白いところも厳しいところもわかってきました。

あとつぎ以外で漁業を始めようとするのは大変です。船や道具をそろえるため金銭的な負担もそうですが、船や道具をどうやって手に入れるか、どうやれば上手く作業ができるか、などを相談する相手が家族にいないのです。「そうした相談窓口みたいなものがあれば、自分のように漁師を仕事にしようという人が増えるのではないか。」と滝田さんは考えています。

「技術を習得して、まずはワカメ養しょくを軌道にのせたい。」と滝田さんは言ひます。

そして、漁業でお金を貯め、自分が主演の映画を撮るのだといひます。「九州に漁師をしながら俳優を続けている加藤茂雄さんという人がいて、93歳で初の主演映画を撮った。その人が目標」。アクション俳優の夢は、まだ続いています。



考えてみよう・話し合ってみよう

- 滝田さんは、亡き祖父について、どのような思いをいただいているのでしょうか。
- 滝田さんが、近所の漁師さんや祖父の友人から教わりながら、2年間漁師を続けられた理由を話し合ってみよう。

13 前九年合戦にみる奥六郡(岩手)の覇者

今から約1000年前の平安時代、全国に知られた安倍氏がいました。岩手県内陸部を治めていました。

安倍氏はなぜ前九年合戦で当時の朝廷(都)と戦ったのか

安倍氏が治めていた当時、陸奥国の奥六郡(今の岩手県)はさまざまな特産物が運ばれ豊かでした。しかし、都の貴族はその特産物を欲しがり、陸奥守(今の県知事)となった藤原登任は安倍氏を支配しようとして前九年合戦が起こりました。藤原登任らの国府軍が安倍頼良を攻めましたが、鬼切部の戦いで破れます。そこで朝廷は、もっと勇猛な源頼義に戦わせようと、陸奥守に任じます。これ以上の戦いを望まない安倍頼良は源頼義に従うことにし、名前を安倍頼時と変えます。

ところが源頼義の部下がおそわれる事件が起こります。実は源頼義がしくんだ事件とされていますが、頼時の息子の貞任が疑われ、頼時は頼義から息子を差し出せとせまられます。頼時はこの命令に従わず、「人倫の世に在るは、皆妻子のためなり」(人として生きていく道理は妻や子ども、つまりは家族のためなんだ)と言って再び戦うことにします。

安倍頼時は流れ矢にあたり、鳥海柵で亡くなりますが、その後を息子の貞任と宗任が引きつぎ戦います。負け続けていた源頼義は出羽国(今の秋田県)の清原氏の助けをかりてやっと勢いをもり返しました。貞任と宗任の軍は破れ、最後に厨川柵で貞任は亡くなり、宗任はほりよとなつて都(京都)に送られました。その後太宰府のある九州に移され、そこで生涯を終えました。



安倍宗任の館 鳥海柵跡



考えてみよう

●なぜ、安倍氏は当時の朝廷と戦ったのでしょうか。

14 35年続く「ふるさと交流学習会」

紫波町の片寄小学校と上平沢小学校の5年生の大きな行事の一つは「ふるさと交流学習会」。沿岸部にある大槌町立吉里吉里学園小学部の5年生と毎年交流しています。

内陸の生活と沿岸の生活を体験する「ふるさと交流学習会」

2017(平成29)年7月、片寄小学校・上平沢小学校の5年生が大槌町に行って、吉里吉里学園の5年生と一緒に海水浴をしたり、いかに乗ったりしました。

[2020(令和元)年の交流]



そして9月、紫波町の志和公民館で両校の5年生が再会しました。歓迎会の後、紫波町の自転車競技場へ行きました。選手たちは34度の急な傾斜を走るそうですが、子どもたちは角度のないコースを自転車で走りました。午後からは稲刈り体験です。「ヒメノモチ」という米の稲をカマでかり取りました。最後は温泉館で電気風呂を体験し、1日の疲れをとりました。

東日本大震災でも中断しなかった「ふるさと交流学習会」

「ふるさと交流学習会」は、1985(昭和60)年から続いています。2011(平成23)年3月11日の東日本大震災では、震災から1週間ほどたった3月19日、何かしたいと紫波町の公民館に避難所を開設、病院にかかる必要がある人や赤ちゃんをかかえた家族などを中心に100名近くの人に避難してもらいました。長年の交流があったので、すぐに助け合うことができました。

その夏、交流学習会をどうするのか大人たちは話し合い、5年生が楽しみにしている、なんとか実施しようと意見がまとまりました。バスで大槌町の子どもたちをむかえに行き、紫波町の公民館に3校の子どもたち全員が泊まりました。震災後、公民館が避難所となった経験があったので、子どもたちを受け入れることができたのです。



考えてみよう

●どうして、片寄小学校、上平沢小学校、吉里吉里小学校の交流は、35年間続けることができたのでしょうか。

15 ひでよし とういつ さいご せんじょう く のへじょう 秀吉、天下統一の最後の戦場「九戸城」

二戸市の南側に、九戸城跡があります。ここは戦国時代、豊臣勢と九戸勢が戦ったところです。秀吉が天下を統一する前の最後の戦場となった九戸城と悲運のうちに散った戦国武将・九戸政実について学びましょう。



奥州再仕置軍に囲まれた九戸城

南部に九戸政実あり

若くして九戸城主となった九戸政実は、いつも落ち着いて、決して感情を顔に出すことはありませんでした。勇気に満ち、周囲を圧倒する存在感を備えていたため、いつしか「南部に九戸政実あり」と言われるようになり、その名は広く知れ渡っていました。

マンガ『九戸政実物語』



九戸軍と奥州再仕置軍との戦い

九戸政実は、南部信直と対立していました。信直は秀吉の家来であったため、1591年6月、秀吉は九戸政実に対し、攻撃をしかけました。奥州再仕置軍(東北各地で起こった一揆を鎮圧するために組織された軍)に出動命令を出し、9月2日には総勢65,000の兵が九戸城を取り囲みました。それを迎え撃つのは、九戸の兵わずか5,000です。



九戸軍は連戦連勝

鉄砲、弓矢、槍、長刀など、それぞれの武器をその場にに応じて使い分けて攻撃するので、九戸軍は連戦連勝、さらに豊臣軍を攻め立てました。

中でも有名なのが「ハタフク戦法」です。猫淵川をせき止めてたまった水の上に、米ぬかをまいて土のように見せかけ、そうとは知らずに攻め込んできた敵が足を取られて動けなくなっているところに、弓や鉄砲をあげたのです。攻めても攻めても九戸城はびくともせず、豊臣軍の被害は一戦ごとに大きくなり、戦えば戦うほど多くの死傷者が出ました。

政実、豊臣軍の策略に散る

豊臣軍は戦いが長引くと食料がなくなる心配が出てきた上に、朝夕の寒さも日に日に厳しくなってきました。豊臣軍は戦いを止めて和睦するよう、長興寺の薩天和尚に政実を説得してもらうことにしました。「降参すれば、政実の一族や九戸の兵士、領民の命は守る。秀吉に事情を説明すれば、政実の命はもとより、領土もそのまま政実に与えられるかもしれない。」との話を聞いた和尚は、そのまま政実に伝えました。

政実は和睦を受け入れる決心をし、9月4日、頭を丸めて敵陣に姿を見せました。

ところが、政実はとらわれてしまいました。だまされたのです。豊臣軍は九戸城の中の兵を次々と鉄砲で撃ち殺し、女、子どもは二の丸に閉じ込めて門を閉ざし、火を放って焼き殺しました。九戸政実は、豊臣秀次の本陣で一言も言葉を口にできないまま、ただちに打ち首を命じられ、9月20日栗駒の上品寺で殺されてしまいました。



和尚の話を受け入れる政実

九戸城は天然の要塞

九戸城は西に馬淵川、北に白鳥川、東に猫淵川と三方を深い川に囲まれ、南に浪打峠や尻口山などの険しい山がそびえ、防備に優れた城でした。実際、豊臣軍が鉄砲で攻撃しても、城が遠いこともあってあまり効果がありません。逆に政実からの的確な攻撃を受けて、多数の兵を失いました。

自軍の13倍もの大軍に対して一歩も引けを取らぬ戦いを見せた九戸の兵士と、悲運のうちに散っていった戦国時代の最後の武将「九戸政実」は、今も語りつがれています。



城を守った険しいがけ



調べてみよう・話し合ってみよう

- あなたの住んでいる地域の歴史を調べてみよう。
- なぜ、九戸政実の軍は、13倍もの大軍に対して一歩も引けをとらなかったのか話し合ってみよう。

16 地域学習「平泉学」

平泉町では世界遺産登録をきっかけに「平泉学」が始まりました。

長島小学校の平泉学

1、2年生は、地域を知ることから始まります。3年生は、長島の地域に住む人々の暮らしについて調べています。4年生は、地域の祭りを中心に学んでいます。大文字焼きという行事などについて調べる活動をしています。5年生は、水質調査や環境についての学習をしています。「古事の森育成事業」にも参加し、木材を育む森林作りの意義を学び、実際に植樹を行うなどの体験活動を行います。6年生は、世界遺産だけではなく、学区である長島の歴史的・文化的価値について調べ学習を行っています。学んだことを地域の人に発表したり、パンフレットにししたりして多くの人に伝える活動にも積極的に取り組んでいます。



西行さくらの森を舞台にした創作劇

地域とのかかわり

長島小学校は、地元の行事に積極的に参加しています。4～6年生の全児童が合奏団活動に取り組んでおり、藤原祭りのパレードなどで演奏しています。観自在王院跡から中尊寺金色堂まで練り歩く水かけみこしなどにも多くの児童が参加しています。また、秋の祖父母参観には多くの方々が学校を訪れ、一緒に昔遊びをするなど、地域住民も学校行事に喜んで参加します。長島小学校では、縦割り班で行う全校遠足やなわとび大会、ドッジボール大会などの活動を通し、上級生が自然に下級生の世話をしています。地域の人は「それは昔からの伝統だ。」とふつうに言います。長島小学校では平泉学がずっと根付いているのです。



長島小学校合奏団

話し合ってみよう

●あなたの地域のよさを話し合ってみよう。

17 雪谷川とともに生きる

1999(平成11)年10月、東北豪雨により雪谷川がはらんし、軽米町は大きな被害を受けました。この災害を町民が一体となって乗り越え、雪谷川は災害対策のため改修されました。

雪谷川はらんの教訓を伝える

雪谷川のはらんは住宅の全壊25棟、床上しんすい水456棟、畑や田んぼが使えなくなるという大きな災害でした。

軽米町で食堂を営む堀米成嘉さんは、当時、消防団員として雪谷川のはらんの動画を撮影していました。映像には水に埋もれていく町の中心部や、腰まで水につかりながら避難する住民の様子がおさめられています。このような災害を起こさないために、堀米さんは毎年のように町内の小学校で映像を見せながら講演し、命を守るための行動の大切さを伝えていきます。



2004(平成16)年に工事は終了し、川はばが拡張され、護岸も整備された



ビデオを見せながら講演

夢灯り in 雪谷川

被災した町民をはげまそうと、町内外のボランティアの方たちにより2500個のキャンドルにあかりがともされる「夢灯り in 雪谷川」が2000(平成12)年1月に行われました。この夢灯りは町民の手に引きつがれ、「心を一つに乗り越えた災害の教訓を語りつぐ」との思いで、毎年10月に開きされています。



夢灯り in 雪谷川

話し合ってみよう

●あなたの住んでいるところの自然の恵みを生かすための工夫を話し合ってみよう。

18 ホッケーの町 岩手町

岩手町にあるホッケー場。ここには6人制コートが4面、11人制コートが1面、そして夜でも試合ができる照明設備があります。まさに「ホッケーの町 岩手町」を象徴する施設です。岩手町はなぜ「ホッケーの町」と言われるようになったのでしょうか。

岩手国体がきっかけ

岩手県はホッケー競技が盛んですが、そのきっかけは今から約50年前、岩手町から始まったのです。1966(昭和41)年7月、岩手県ではじめて国体が開催されることが決まり、岩手町はホッケーの会場地に選ばれたのですが、当時の関係者たちはとまどいをかくせませんでした。なぜなら、それまでまったくホッケーに縁がなかったからです。岩手町の人たちは、だれもホッケーを見たことがなく、何人で競技をするのか、ルールさえ知らなかったのです。

その後、ホッケーに関する準備が始められ、1968(昭和43)年に沼宮内高校にホッケー部ができました。ホッケー部の指導をしたのは、日本体育大学を卒業した西田範次さんでした。西田さんは国体のスキー競技で活やくした先生でしたがホッケーに関しては未知の分野でした。し行さく誤を重ねて、高校生たちを指導していきました。部員たちは一生けん命に練習し、初めての大会に出場しました。結果は男女ともに初戦で敗退でした。

試合を重ねて

1969(昭和44)年の神奈川インターハイで、北海道チームを相手に、男子が初めて勝ちました。記念すべき1勝でした。1970(昭和45)年8月の福井インターハイでは、男子チームは準々決勝で敗れましたが、創部2年でのベスト8でした。また、女子チームも初戦で千葉県の高校に勝ち、初めて1勝したのです。

そして10月、ついに岩手国体の日がやってきました。高校男子チームは全員が沼宮内高校生でした。当時、高校女子部門はなかったため、高校女子チームは一般部門に参加するしかありませんでした。結果は、高校男子、一般男子、女子、すべて4位になりました。



岩手国体少年女子(2016年)

オリンピック選手を出す！

岩手国体が終わった後に、国体が成功したことを記念して町民ホッケー大会が開催されました。その時、当時の宮田九八町長が「ホッケーを町技とする。」と宣言し、町内の各学校では体育科目にホッケーが取り入れられました。

宮田町長は、口ぐせのように次のようなことを言っていました。

「東北はどん感だ。早めにエンジンを全開にしろ、そうすれば必ず勝てる。私の目が黒いうちに世界に通用するオリンピック選手が出る。」と。そして宮田町長が言ったとおり、岩手町からオリンピック選手が生まれたのです。



町民ホッケー大会中学校の部

町の夢を実現した2人

2008(平成20)年に中国で開催された北京オリンピック。この大会に、女子ホッケー日本代表として出場したのが早野(旧姓 小沢)みさきさんです。早野さんは岩手町出身で、地元の少年団でホッケーをやっていました。早野さんは当時のことを、「私にとって宝物です。楽しい事もくやしい事も全ての経験が今の自分につながっています。」と語っています。

田中泉樹さんも岩手町出身のホッケー選手で、2012(平成24)年のロンドンオリンピックに出場しました。田中さんは中学1年生でホッケーを始め、練習を重ねていくうちに自分自身が成長しているのがわかり、だんだんホッケーが好きになったそうです。

これからも「ホッケーの町」であるために

このように、岩手町が国体でのホッケーの会場地に決まったときから、多くの人たちの努力と練習で「ホッケーの町」になっていったのです。岩手町の人たちの努力と練習は今後も続いていくことでしょう。



考えてみよう・話し合ってみよう

- 岩手町の人たちは、「ホッケーの町」にするために、どのような努力をしてきたのか考えてみよう。
- 数年後、あなたの住んでいるまちがどのようになってほしいか、話し合ってみよう。

いきる

かかわる

そなえる

いきる

かかわる

そなえる

19 海がない、津波が来ない、だからこそ……

——遠野市の後方支援活動——

2011(平成23)年3月11日14時46分、東北地方太平洋沖地震が発生。
震度5強のゆれにおそわれた遠野市役所では災害対策本部を設置。このときから、
海の無い市の東日本大震災とのたたかいは始まりました。

地震から14分後の判断



救援部隊の集結地となった遠野運動公園
(出典：いわて震災津波アーカイブ/提供者：岩手県総務部総合防災室)

地震からたった14分後の15時、
遠野市の災害対策本部は、冬季閉鎖
中だった遠野運動公園の開放を指示し、
照明の設置などの準備を始めました。
これは遠野市のためではなく、沿岸
部の被害が大規模なものになり、救
えんにかける警察・消防・自衛
隊の集結地として運動公園が必要に
なると判断したのです。

この時点で津波は沿岸の市町村に
到達していませんでしたが、ラジオ

は「大津波警報が発令されました。皆さん逃げてください。」とさけんでいました。

この準備のおかげで、11日夕方から到着し始めた警察・消防・自衛隊・医りょう機
関・ライフライン復旧などの部隊は、遠野市を基地として津波被災地の救えんに活やくで
きたのです。

11日の夜には、津波被災地から避難者を運ぶためのバスが15台待機していました。ひ
難所は市民の協力によって運営されました。

日付が変わった12日1時40分、対策本部に一人の男性がかけこんできました。

「大槌高校に500人が避難している。何とか手を貸してほしい。」

となり町からのSOSでした。男性は県立大槌高校から約62キロメートルの道のりを2
つの峠を越えてたどりついたので。対策本部では毛布や非常食・水・灯油を車に積み込
み、市職員2人を派けんしました。大槌町のさん状を見て対策本部にもどった2人の第一
声は「言葉になりません……。」というものだったといいます。

遠野市では災害対策本部とは別に後方支援活動本部を設置しました。市職員も市民も一
丸となって、津波被災地を助けることにしたのです。

屋内運動場を支援物資センターにし、
12日には物資の搬送が始まりました。

市内の各所でたき出し活動が行われ、29
日間で約14万2,400個のおにぎりをにぎり、
沿岸部や救えん部隊に届けました。

全国から集まった救急車や医りょうチーム
は遠野市から被災地に向かい、市内の病院は
被災地からの患者を受け入れました。

被災地へ向かう給水車には、消火栓から水を提供しました。

14日には、行方不明者の安否確認のための相談窓口を開きました。市の消防団員が被災
地の避難所をめぐってだれがどこにいるのか情報を集め、それを提供するのです。

16日には、災害ボランティアセンターが開設され、ボランティアの受け入れが始まり
ました。これは、遠野青年会議所・NPO団体・ボランティア団体などが集まって作った「遠
野まごころネット」に引きつがれ、遠野市は災害ボランティアの一大拠点になりました。



支援物資センターとなった屋内運動場
(出典：岩手県遠野市)

遠野市だからこそ果たすべき役割がある

遠野市は内陸と沿岸を結ぶ交通の要所です。チリ地震津波・昭和三陸地震津波・明治三
陸地震津波のときも、遠野は被災地救援の拠点でした。

そうしたことから、遠野市は2007(平成19)年、内陸部として初めての津波災害を想
定した「平成19年度岩手県総合防災訓練」を県と共催し、翌年には地震・津波被害を想定
し東北所在の自衛隊全部隊が参加した震災対処訓練「みちのくALERT2008」に参加、遠野
運動公園などを部隊の集結地として訓練を行いました。

そう、遠野市はつねに備えていました。

「海がない、津波が来ない、だからこそ果たすべき役割がある。」

その備えがあつてこそ、遠野市は被災地を支える役割を果たすことができたのです。



考えてみよう・調べてみよう

- なぜ、遠野市は、地震から14分後に運動公園の開放を指示したのでしょうか。
- 災害が発生したとき、どのような支援が行われたか調べてみよう。

20 多くの人に歌声を届けたい

——歌い続ける不來方高校音楽部——

東日本大震災が起きた2011(平成23)年、不來方高校音楽部はいち早く沿岸部に歌声を届けました。以来、不來方高校音楽部の復興支援コンサートとして、いまや日本だけでなく、海外でも歌い続けています。

励ましに行き、励まされた

東日本大震災が起きた2011(平成23)年、不來方高校音楽部はめまぐるしく活動しました。4月1日の釜石市や山田町の避難所でのコンサートを皮切りに、毎週小学校やスーパー、役所などで歌いました。

活動は被災した沿岸だけではなく、内陸部では、被災した人たちを励ましたり、義援金を集めるためのイベントが多数行われていました。声がかかると不來方高校音楽部は可能な限り、部員たちを2チーム、3チームに分けてでも参加しました。

「被災した人たちのために何かしたい、何かせずにはられない。」そのいちずな気持ちが部員たちを動かしていたのです。

また、部員たちのその気持ちや行動は、被災した人たちを大いに勇気づけていました。ある避難所では、「いままで涙も出なかったけれど、今日は後から後から涙が出た。この涙でつらかったことを洗い流して、明日から涙を見せずにがんばる。」と言われました。部員たちもまたはげまされて、過こくな日々を乗り切ったのです。

避難所からの手紙

はずかしながら、今まではコンサートとか演劇など見るチャンスもなく、興味もなく、がむしゃらに働いてきたものを震災でなくし、これからの生活のめどもつかず、肩を落としていた自分の心に、あなた方のすき通った声がしみ込んできました。そのとき、これが音楽というものだと感じました。顔を上げられるような気がしました。勇気がでたような気がします。きつとがんばります。ありがとうございます。(65歳)

いまでも続く、復興支援コンサート

山田、大船渡、釜石、陸前高田など、不來方高校音楽部の復興支援コンサートは今でも続いています。また、日本のみならず、海外でもコンサートを開いています。

2010(平成22)年にはオーストリアに行き、小学校や中学校で歌いました。その時にお世話になった現地の人たちやホストファミリーが東日本大震災の被害を心配し、義援

金やはげましのカードを送ってくれました。そのお礼にと、2018(平成30)年にまたオーストリアに行き、コンサートを開きました。



オーストリアの合唱団と「花は咲く」



復興支援コンサート(2011年4月)



メッセージソングのステージ

音楽の力を信じる

不來方高校音楽部の復興支援活動は、東日本大震災ばかりではありません。阪神淡路大震災を経験した人たちとの交流もあります。また、近年は台風や大雨による被害がひん発し、しかも常識をはるかにこえるレベルでやってきました。そのような災害にも目をむけ、新たな活動も行っています。「音楽には希望のハーモニーを届ける力がある。」と信じているのです。

毎年3月11日に盛岡市で、東日本大震災でぎせいになった方たちの鎮魂と、被害にあった方たちの心の平安を祈り、「祈りの灯火」が開催されます。この行事に、不來方高校音楽部は欠かさず参加しています。大学受験を控えている3年生もいますが、最後の部活動として全員で制服を着て歌うのです。



祈りの灯火(2018年3月11日)



祈りの灯火(2013年3月10日)



考えてみよう・話し合ってみよう

- 不來方高校音楽部の合唱を聞いた人たちは、どんな気持ちになったと思いますか。
- なぜ、不來方高校音楽部は、今でも復興支援コンサートを続けているのか話し合ってみよう。

21 エネルギー自給率350%のまち 葛巻町

林業のさかんな葛巻町では、風力や太陽光などの天の恵み、牛のふん尿や間ばつ材などの地の恵みを活用した再生可能エネルギーのまちづくりを推進し、実行しています。



ペレットボイラー

まちの課題をエネルギーへ！

林業とらく農がさかんで、豊富にある木材、処理に困っていたふん尿。それらを生かしてまちの課題を解決しようとまちをあげて取り組んだのがクリーンエネルギーです。「天のめぐみ」「地のめぐみ」を生かし、そこに「人のめぐみ」を加えて、様々なクリーンエネルギーのし設が作られていきました。

①風力発電

町外事業者と連携して風車34基が建設され、化石燃料に頼らないエネルギーを生み出しています。



風力発電

②畜ふんバイオガス発電

葛巻町は、東北一のらく農のまちで、人間の数より牛の数が多く、牛たちが出す大量の畜ふんを利用しているのが畜ふんバイオガスシステムです。今ではこの畜ふんと町内から出る生ゴミを発酵させてエネルギーを得るようになっています。



畜ふんバイオガス発電

③木質バイオマスガス化発電

森林からたくさん出る間ばつ材ですが、放置された間ばつ材を原料としているのが、木質バイオマスガス化発電設備です。

これら再生可能エネルギーを利用した発電量は、町全体の消費電力の3.5倍もの電力を生産していて、日本屈指のクリーンエネルギー先進町となっています。



木質バイオマスガス化発電



調べてみよう

- 再生可能エネルギーのよさを調べてみよう。

22 西和賀デザインプロジェクト「ユキノチカラ」

西和賀町では2015(平成27)年から3年間、西和賀デザインプロジェクト「ユキノチカラ」を実施しました。地元でとれる農産物などを生かして新たな商品を作りつつ、西和賀町の魅力を伝えながらはん売しています。



「ユキノチカラ」ブランドイメージ

雪の力をアピールし、西和賀町の魅力を伝える

西和賀町では2015年に、西和賀町の食品メーカー6事業者と盛岡市にきよ点を置く6人のデザイナーが参加し、観光PRにつなげる商品とブランドの開発を行いました。そこから生まれたブランドが「ユキノチカラ」です。



「ユキノチカラブランド」の商品

商品開発とデザインとPRと

初年度に取り組んだのが商品開発。1年かけて、西和賀町の特産品である西わらび、そば粉、牛乳、米などを使った6事業者の商品6点、「金と銀のフィナンシェ」、「ほろりん」、「ユキノチカラめし」、「雪のようせい」、「サンタランドのぽんせん」、「ゆきぼっこ」が2016(平成28)年3月に完成しました。そして、これら「ユキノチカラ」ブランドの商品は、3月22日、23日に東京ミッドタウンで開さいされた「復興デザインマルシェ2016」で初めてしょうかいされ、大人気でした。これ以降、「ユキノチカラ」ブランドの商品は各地で開催された見本市やイベントで評価され、マスコミでも紹介されています。6事業者の6品目で始まった「ユキノチカラ」ブランド商品は、2019年現在9事業者から14種類23品目がはん売されるようになり、全国に西和賀町の魅力を発信しています。



復興デザインマルシェ2016で初めて「ユキノチカラ」ブランドの商品をしょうかい



調べてみよう

- あなたの住んでいるところの魅力を生かした特産品を調べてみよう。

23 地域活性化プロジェクトを推進中

ちいさな せいせいか ちいさな
きたかみ きょうりょくたい
北上市地域おこし協力隊

北上市では、2016(平成28)年より地域おこし協力隊員を受け入れ、2019(令和元)年12月までに9人の隊員が地域活性化に取り組んでいます。

隊員の役目はプロジェクトを推進して、北上市に定住する

「地域おこし協力隊」は2009(平成21)年に総務省がつくった制度で、高齢化、過疎化が進んでいる地域に都会の人に寄り住んでもらい、地域にこうけんする仕事をしながら、定住してもらうものです。

2019年12月までに6つのプロジェクトに9人の隊員が参加し、2つのプロジェクトが完了、5人の隊員が卒業して市内に住み、事業を行っています。

北上市地域おこし協力隊第一号は、東京都からやってきた佐藤啓さん。「観光まちづくりプロジェクト」に参加し、地域の広告制作を行いながら、農業体験と宿泊を結ぶ「週末農園」などを開きました。卒業後は「株式会社祭り法人射的」を立ち上げて事業を行っています。このプロジェクトには、ほかに市川明伯さんと高橋裕子さんの二人の隊員が参加。卒業後は二人とも北上市で起業しています。

「夏油高原エリア活性化プロジェクト」に参加した隊員は仙台からやってきた中村吉秋・邦子夫妻。古民家を改築して、観光案内所兼カフェをオープン。卒業後もそこで夏油高原エリアの魅力を発信しています。

地域おこし協力隊のもつ地元にはない発想力と様々なネットワークが今後も北上市を活性化します。



2016年のメンバー



古民家を改築した観光案内所兼カフェkobiru



kobiruの店内で働く中村夫妻



話し合ってみよう

● 地域に貢献するために、自分たちができることを話し合ってみよう。

24 「増しよく溝」で良質なウニを育てる

ぞう こう

洋野町は、増しよく溝でウニを育てています。「増しよく溝」とはいったい、どのようなものでしょうか。

遠浅の岩盤に作った「増しよく溝」でウニを育てる

とおあさ がんぼん ぞう こう

今から約50年前、遠浅の岩盤を削って深さ3メートルほどの溝を掘り、天然コンブを増しよくさせました。コンブはウニのえさです。洋野町ではウニの卵を1年間育て、稚ウニを海に放流し、3~4年後採取して増しよく溝に移しよくし、その翌年3~8月に収穫します。こうすることで、身入りがよく良質なウニを安定して収穫できるようになりました。



潮が満ちると溝は見えない



潮が引くと溝が現れる

「海はともだち」洋野町の海洋教育推進事業

ひろの すいしん

洋野町では、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で海洋教育推進事業を展開しています。宿戸小学校では、2年生で稚ウニを放流し、5年生では大きく育ったウニを収穫する水産教室を実施しています。中野小学校には「海洋科」があり、3~6年生でテーマを決めて海洋学習を進めています。中野小学校の海洋学習の特徴は卒業論文。5年生のときに研究テーマを決めて、2年間かけて研究し、成果を卒業論文としてまとめます。洋野町に誇れるものがたくさんあることを知り、子どもたちはますます意欲的に海洋学習に取り組んでいます。



宿戸小学校の水産教室



やってみよう

● あなたの住んでいるところを「親しむ」「知る」「守る」「利用する」でまとめてみよう。

25 おもしろ～ことてんこもり！元祖しずくいし軽トラ市

近年、「青空市」がにぎわいを見せています。地元の新鮮な野菜や果物、素材や作り方にこだわった加工品などが手に入る「青空市」は、商店街の活性化だけでなく、生産者の販路のひとつとして期待されています。

60台もの軽トラがならぶしずくいし軽トラ市

2005(平成17)年、全国にさがけてしずくいし軽トラ市が開かれました。栗石町の軽トラ市は、お店を出す人にとって、荷物の移動が少なく時間と労力の節約になること、来る人にとっては、軽トラックが並ぶ独特の景観が魅力的であるなどの理由から、年々来場者数が増えています。この軽トラ市は人気を呼び、全国に広がり、今では100か所前後で開かれています。



第100回しずくいし軽トラ市(2019年6月)

年々ふえる来場者

しずくいし軽トラ市は、栗石町の中心街「よしゃれ通り」で毎年5月から11月まで月1回開催されます。

2005(平成17)年に約1万3,000人だった年間来場者数は、2019(令和元)年には3万人をこえるまでになりました。商店街を買い物が埋め尽くし、町は大いににぎわいます。

また、軽トラ市では、野菜、果物、加工品などの販売だけでなく、音楽ライブ、ちゅう選会、親子向けに輪投げ、射的ゲーム、地元高校生による伝統芸能など様々なイベントも開催されています。今後またたくさんの方にも来てもらえるよう、町をあげて軽トラ市を魅力あるものにする努力を続けています。



たくさんの人でにぎわう



軽トラ市は子どもたちにも人気



考えてみよう

●軽トラ市には、どんな魅力があるのでしょうか。

26 野田村を音楽で元気にしたい ——野田小学校合奏団——

野田小学校合奏団は1975(昭和50)年に結成されました。それ以来、ほぼ半世紀、元気を届けようと演奏し続けています。

ほぼ半世紀続く演奏活動

野田小学校合奏団は1975(昭和50)年、鼓笛隊に金管バンドが加わってできました。すでに半世紀近く活動しており、親子二代の団員もいます。野田まつりなど地域の行事で演奏するほか、県大会や東北大会のコンクールでも好成績を残しています。



野田まつりで演奏する野田小学校合奏団

●心を一つにして、心に残る演奏をしよう

「自分たちの演奏で地域の人を元気にしたい」というのが代々団員に受けつがれている思いです。この思いが2011(平成23)年の東日本大震災以降、ますます強まっています。そのため、「あいさつや返事は大きな声で」「時間を守る」「楽器を大切に使う」などの決まりも自然と受けつがれ、上級生が下級生に楽器の扱い方や音の出し方の指導もしています。

●40周年記念「ありがとうコンサート」

2016(平成28)年2月には、合奏団結成40周年を記念した「ありがとうコンサート」が開かれました。時代の流れか児童数が減り、少人数での活動になってきていましたが、卒業生たちがかけつけ、地域の演奏家たちも一緒に演奏し、団員たちを勇気づけていました。団員たちは、「感謝をこめて演奏しました。これからも感謝の気持ちで演奏を続けたい。」と話していました。



野田小学校合奏団結成40周年記念「ありがとうコンサート」



話し合ってみよう

●なぜ、野田小学校合奏団は、東日本大震災以降、「地域の人を元気にしたい」という思いが強くなったのか話し合ってみよう。

27 えんがん 沿岸部のまちを、人をむすぶ ——三陸鉄道のたたかい——

東日本大震災から力強く立ち上がった三陸鉄道。
いつもの朝、いつもの駅に、いつもの列車が来るということを実現するために、
三陸鉄道のたたかいは今なお続いています。

沿岸部が鉄道で結ばれた日



釜石市両石駅でリアス線全線開通を祝う人たち (出典：いわて震災津波アーカイブ/提供者：釜石市総務企画部広報課)

2019(平成31)年3月23日は、岩手県沿岸部の市町村にとって待ちに待った日でした。

とくに大槌町・山田町の人々にとっては待ち遠しかったでしょう。東日本大震災の日から止まっていた鉄道の、やっとやってくるのです。

東日本大震災でずたずたになった三陸鉄道は、それでも地震・津波の5日後には久慈駅から陸中野田駅の間で運転を再開し、2014(平成26)年4月までには久慈駅と宮古駅を結ぶ北リアス線、釜石駅と盛駅を結ぶ南リアス線を復旧させていました。

問題となったのは震災時JR山田線だった宮古駅と釜石駅を結ぶ13駅、約55.4キロメートルの路線でした。



宮古駅に展示された小学生の自由研究

2014(平成26)年1月、JRは宮古駅～釜石駅間を三陸鉄道にゆずるという提案をし、翌年に合意が結ばれ、復旧工事が始まりました。

そうしてこの日、久慈駅から盛駅まで約163キロメートルを結ぶ、三陸鉄道リアス線の全線が開通したのです。

三陸鉄道のたたかいはまだまだ続く

それから半年ほどで、三陸鉄道は再び大きなピンチを迎えます。2019(令和元)年10月12日に上陸した台風第19号による被害です。

大雨により線路の路盤が流れたり、土砂が流れこんだり、のり面がくずれたりといった被害が77か所、ケーブルが切れたり器具が水につかたりして信号が使えなくなった場所が16か所におよびました。春に開通したばかりの織笠駅～岩手船越駅では、線路が完全に宙にういてしまいました。

10月14日には釜石駅から盛駅、10月15日には田老駅から宮古駅の間で運転を再開しましたが、それでも路線の約70パーセントが不通になってしまったのです。懸命に復旧作業が続けられ、11月28日には宮古駅から津軽石駅、12月28日には田野畑駅から田老駅、2020(令和2)年1月16日には津軽石駅から陸中山田駅の運転が再開されました。そして3月20日には、全ての路線が復旧したのです。

三陸鉄道はあきらめません。
みんなの足を、いつまでも止めておくわけにはいかないのです。



台風の被害で宙にういてしまった線路
山田町船越地区



考えてみよう・話し合ってみよう

- なぜ三陸鉄道は、東日本大震災から5日後に久慈駅から陸中野田駅の運転を再開したのでしょうか。
- 沿岸地域の人たちにとって、三陸鉄道はどのような存在か話し合ってみよう。

28 たの は た か た べ 田野畑村の語り部活動

語り部とは、昔から言い伝えられている話を現在に語りついでいる人のことです。岩手県各地に、そして田野畑村にも東日本大震災を伝えようとする語り部がいます。

過去の災害を忘れないために

1933(昭和8)年3月3日、東北地方を震度5の地震がおそいました。昭和三陸地震といわれるものです。東日本大震災と同じように大きな津波が岩手県にやってきて、田野畑村も被害を受けました。田野畑村の大人たちは子どもたちを守るために、自分たちが経験したことを未来へ残そうと、この昭和三陸地震について学校などを対象に語り部活動をすることにしました。

そして2011(平成23)年3月11日、東日本大震災で田野畑村を大きな津波がおそいました。このとき、語りつがれていることを守った人に被災者は少なかったのです。田野畑村は先人たちがしてきた語り部活動で被害が少なくてすんだのです。

東日本大震災の経験を未来へつなげる

東日本大震災が発生したあと、田野畑村はどのように復興するか検討しました。田野畑村を昔のように発展させるには、多くの観光客に来てもらわなければなりません。

そんなとき、東日本大震災について話を聞きたいという要望がありました。そこで語り部活動をプログラム化しようと考えました。今後も被害を少なくしていくためには語り部活動が必要で、自分たちの経験を語ることで防災意識が高まります。語り部たちの手元には、震災前の写真と震災後の写真がありました。それを資料として使いました。語り部活動を始めると、「話を聞きたい」「震災について知りたい」という人が増えてきました。



田野畑村羅賀地区に打ち上げられた津波石



しんけんに聞き入る子どもたち

田野畑村の机浜番屋群、被災前と被災後の写真
(出典：いわて震災津波アーカイブ/提供者：田野畑村)



被災前(2009(平成21)年7月8日)



被災後(2011(平成23)年3月23日)

「津波てんでんこ」とは

田野畑村以外のところから来た人の中には「津波てんでんこ」を理解できず、1人で逃げることはできないと話す人もいます。しかし、「津波てんでんこ」の意味することは、「みんなが助かるためにはめいめい責任をもって逃げなくてはいけない」、つまり自分の命は自分で守る、ということです。家族がはなれていてもそれぞれ自分の命を守れば、みんなが助かります。「あの人はどうしているか。」と心配して見に行くのではなく、「あの人は逃げているから自分も逃げる。」と思って逃げるのがみんなの安全につながります。

語り部が語りつぐ経験とは

では、語り部たちはどのようなことを伝えられているのでしょうか。その1つに「津波は第一波より二波、三波のほうが大きい場合もある。」というものがあります。第一波が小さいからといって、油断して家に帰るようなことがあってはいけません。

また3、4メートルの高さの高波の場合、もぐれば身体を波に持っていかれることはありません。しかし津波の場合、少しの高さでも物を持ち上げ、流す力があります。10センチメートル、20センチメートルの津波でも、浜に近づいてはいけません。このようなことを語り部たちは伝えていきます。



考えてみよう・話し合ってみよう

- 打ち上げられた「津波石」は、何を伝えようとしているのでしょうか。
- 語り部は、どんな教訓を伝えていているのか話し合ってみよう。

29 おおつち あんど 大槌町安渡町内会のひ難訓練

安渡町内会のひ難訓練は、地震発生時に自分の身を守る「シェイクアウト訓練」の後、地震がきたときやるべきこと、つまり「自分がやるだろうと思うこと」を3つ書きだす訓練から始まります。



組み立て式のリアカーを使って、要えん護者を運ぶ訓練

東日本大震災時の反省から

安渡地区は、昔から防災意識の高さで知られていました。防災訓練への参加率も高く、「地震が来たら急いで徒歩で高台へ避難」「避難したら戻らない」というルールもありました。

ところが東日本大震災のとき、この地区では住民の1割を超える218人が犠牲になりました。調べてみると「避難後に低地に戻った人」「逃げようとしなかった人」「逃げることができなかった人」がいたこと、最後まで誘導を続けた町内会のひ難誘導班や、高齢者を助けようとした消防団・民生委員など「助けようとした人」の犠牲者が多かったことなどがわかりました。

「震災前に決めていたルールが、いかに実情に即していなかったか。」と、安渡町内会会長の佐々木慶一さんは言います。その反省から、地区では新たな防災計画を作り、現在のようなひ難訓練を続けています。

自分がやるだろうと思うことを3つ書きだす訓練は「やるべきことについての頭の中の整理」、「やってはいけないことの確認」、「時間が限られていることの自覚」の3つをねらったものです。ひ難場所への移動では「避難後に低地に戻ろうとする人」「避難しようとしなない人」の役がいて、それを説得する訓練も行われます。自分で歩くことが難しい要えん護者も、地震後15分以内に何とかして自分や家族だけの力で玄関先まで出ることが求められます。玄関先に出てくれば、避難してくる人たちにより要えん護者をいっしょに避難させることができます。これは地震から津波到達までを30分と想定し、前半15分要えん護者を助ける努力に集中、後半15分を避難に使う「15分ルール」によるものです。このルールは「逃げることができない人」「助けようとする人」両方の命を守るものです。それでも、まだ課題はあります。安渡町内会では、これからも命を守るための検討を続けていきます。



やってみよう

●地域の防災訓練に参加してみよう。

30 岩手・宮城内陸地震の学習

げんび 巖美小学校

2008(平成20)年に起きた岩手・宮城内陸地震で一関市は大きな被害を受けました。そこで一関市ではいっせいに「シェイクアウト訓練」を行うなど防災に努めています。また、岩手・宮城内陸地震とはどういうものであったか、一関市立巖美小学校5年生が、聞き取り調査や災害遺構の見学などを行っています。

地震の力は恐ろしい

2008(平成20)年6月14日、岩手県南部を震源地としたマグニチュード7.2の地震が起こり、大きな災害となりました。巖美町にある祭時大橋にも被害がおよびました。押ししてきた山の力に耐えられず、橋はほぼ直角に崩れていました。

岩手・宮城内陸地震を調べた子どもたちは、「実際に地震の被害を見て、地震の恐ろしさを知りました。」「自分の身を守ることや災害に備えることの大切さを学ぶことができました。」と感想を述べていました。



岸が移動して橋をあっぱくし、ほぼ直角にくずれた橋

毎年6月は「シェイクアウト訓練」

巖美小学校は毎年6月に行われる一関市の「シェイクアウト訓練」に参加しています。地震発生時刻の午前8時43分に合わせて、訓練開始の「訓練、地震発生。身を守る安全行動を取ってください。」というアナウンスが流れると、子どもたちはすばやく机の下にかくれます。そして、頭を低くして机のあしをつかみ、身を守る体勢を取ります。巖美小学校では、このような訓練を通して防災の意識を高めています。



すばやく机の下にかくれる



考えてみよう

●教室以外で大地震が発生したとき、どのようにして身を守ればよいと思いますか。

31 津波の教訓を次世代へ、小中合同の避難訓練

「垂直避難！ 率先避難」。普代小学校と普代中学校は、命を守る108段の津波避難階段を駆け上がる訓練を毎年実施しています。

大津波警報発令、高台へ向かって駆け上がり

「巨大地震が発生し、大津波警報発令！」との想定で避難訓練を実施しました。

それぞれの校内で放送が流れると、机の下に入って揺れが収まるのを待ち、先生たちの指示に従い、高さ39メートルの避難場所を目指し、息を切らしながら108段の津波避難階段を駆け上がりました。2014年から毎年実施している合同訓練が、子どもたちの素早い避難行動につながっているのです。

東日本大震災の記憶が薄れていく中、学年毎にまとめて、真剣な表情で避難訓練にのぞむことは、災害から自分の身を守るための行動を考えるきっかけになっています。



避難階段を確認する普代小学校の子どもたち



津波避難階段を駆け上がる普代中学校の生徒たち

避難するために大切なこと

津波から逃げるために、上へ上へと走って行かなければならない現実には、若い児童・生徒たちに気持ちの焦りを生んでしまいかねません。しかし、毎年繰り返し避難行動を確認

することで、非常時にも冷静でいられるようになり、自分の命を守ることができます。整備した三陸沿岸道路普代バイパス沿いにある避難場所までの階段経路を再確認するとともに、国土交通省三陸国道事務所から非常時の使い方や注意点の説明がありましたが、避難階段を登りきるための体力づくりの必要性を、先生たちも含め、改めて実感した訓練でした。

訓練の感想や反省点

- 実際に津波がきたら、訓練のようにスムーズな行動が取れず、もっと時間がかかるのではないかと。
- いつ、何が起きるか分からないので、日頃から必要なものや避難場所を確認しておかなければならないと思った。
- 階段を上がるのが体力的にきつかったが、本当の津波だったらそんなことは言っていられないので、しっかりと自分の命を守れるように行きたい。
- 避難訓練だったが、自分なりに取り組むことができた。津波は来てほしくないが、今日のようにすれば大丈夫だと感じた。



上りきった避難場所での反省会



考えてみよう・調べてみよう

- なぜ、くり返し避難訓練を実施するのでしょうか。
- 垂直避難とは、どのような避難のことか調べてみよう。

大きく折れ曲がった鉄の橋げた、泥にまみれた鍵盤ハーモニカ。
 どちらも、陸前高田市にある「東日本大震災津波伝承館」に展示されています。
 これらの展示は、私たちに大切なことを考えさせてくれます。

東日本大震災の事実と教訓を伝える

鉄の橋げたは、2011(平成23)年3月11日の「東北地方太平洋沖地震」で起きた「東日本大震災津波」で全壊した気仙大橋の一部です。これだけで2.5tの重さがあります。



中央のホールの展示

泥にまみれた鍵盤ハーモニカは、同じときに釜石市立鵜住居小学校で津波の被害を受けたものです。

曲がった橋げたは津波の威力を、鍵盤ハーモニカはふだん生活している場所にも津波がおしよせたことを物語っています。



震災の日まで使われていた楽器

「東日本大震災津波伝承館」は、東日本大震災のことをはっきりと覚えていない、あるいはそのときには生まれていなかったみなさんに、ぜひ行ってほしい場所です。

展示物の一部を紹介すると、「どう逃げたか～命を守った行動に学ぶ～気仙中学校の行動」があります。校舎は全壊し、震災遺構として残されていますが、生徒・先生全員が助かりました。それがなぜなのか知ることができます。

そして、東日本大震災の津波の様子、津波前後の市町村の様子を映像や写真で見ること

ができます。山田町・小谷鳥地区の地層調査からは、約6,500年前から東日本大震災以前にも数多くの津波が三陸地方をおそったことがわかります。

また、津波を経験した方々の証言から、被害の大きさや命の大切さを感じる展示もあります。

自分の「防災のかたち」を考えよう

「未来をつくる」という展示があります。最後にみなさんに考えてほしい展示です。この展示コーナーでは、「防災のために『てんでんこ』からはじめる」ことを提案しています。「てんでんこ」とは、津波から逃れるには一人ひとりが「てんでんこ(てんでばらばらに)に逃げろ」という言葉です。これは、「人にかまわず自分だけ助かれ」という意味ではありません。一人ひとりが、自分の命を守る行動をすることで、他の人の命も守れるという考え方です。では、どうしたらいいのでしょうか。

まず、自分のことを知ること(住んでいる場所、通学路など)。そして、いっしょに住んでいる家族のことや友だち、地域の方々など、まわりのみんなのことを考える必要があります。そこから、自分ができること、やらなくてはならないことを考え、行動し、一人ひとりがそれぞれの「防災のかたち」をつくり、そなえることが大切です。

自然災害は地震や津波だけでなく、台風、火山噴火、急な大雨、かみなり、大雪などさまざまです。家族や友だちと話し合いをしながら、自分の「防災のかたち」を考えてみましょう。



震災について学ぶことを通して、自分の「防災のかたち」を考えるための施設



考えてみよう・調べてみよう

- 災害が発生したとき、自分ができること、やらなくてはならないことは何でしょうか。
- 「津波てんでんこ」とはどのような意味が込められているか調べてみよう。

33 震災学習列車で知る東日本大震災

三陸鉄道は、東日本大震災の被災地の「今」を知ってもらうため、震災学習列車を運行しています。この震災学習列車を利用して久慈市の久慈小学校と霜畑小学校が学習しました。

あの日から、どう復興したのか

2011(平成23)年3月11日、太平洋側には津波が発生し、海沿いを走る三陸鉄道におそいかりました。駅舎や線路だけでなく、電車も数両が使用不可能になりましたが、5日後には一部の区間で運行が再開されました。

あれから約10年がたち、被災地の現状を知ってもらい、自分たちの防災について何ができるかを考えてもらうために、三陸鉄道は震災学習列車を運行することに決めました。

はじめて知った被害

久慈小学校では4年生を中心に、久慈地域がどのような被害を受けたのかを知り、復興がどこまですすんでいるのかを実際に自分で見るために震災学習列車に乗車することになりました。

震災学習列車には、久慈駅から田野畑駅までと、盛駅から釜石駅までの2コースがあります。久慈小学校の4年生は久慈駅から田野畑駅まで乗ることになりました。震災学習列車は貸切列車になるので、車内で係員の人から震災当時の様子や話を聞いたり質問したりすることができます。この日も4年生は係員の人たちから話を聞き、震災前と震災後の様子のちがいにについて実際に車窓からながめる景色をもとに説明してもらいました。田野畑駅にとうちやく後は、普代水門(津波防災施設)や久慈市防災センターの見学をしました。

4年生は、調べたことをマップにまとめ、久慈地域の復興の様子や防災についての発表会を行いました。

[4年生の見学メモ]

- たくさんの方が亡くなったことを教えていくことが大切だから、震災学習列車ができた。
- 野田にきた津波は、30メートル以上だった。
- 野田の保育園の全員(100名以上)が助かった。理由は、避難訓練をしっかりしていたから。
- 自分の地域の避難場所を確認しておく。

「東日本大震災」は遠い国のできごと？

霜畑小学校がある地域は、東日本大震災による大きな被害はなく、児童たちは東日本大震災をあまり知らず、どこか遠い国のできごとのように思っているところがありました。

そこで先生たちは、被害と復興の様子を実際に児童たちに見てもらい、自分たちでできることを考えてもらおうと決めました。そう、震災学習列車の出番です。乗車当日、三陸鉄道の係員の人による説明が車内で行われました。電車が走る地域の被害、復興の様子、震災時の三陸鉄道の対応などの話を聞きました。

人とのつながりを大事にする

被災地域の見学が終わった後、霜畑小学校の児童たちは学級ごとに学習した内容を話し合い、東日本大震災のことを深く知りました。児童たちは心に残ったことを写真と文章でポスター形式にまとめ、全校児童に発表会をしました。そのポスターは、学習参観日に保護者や地域の人たちにも見てもらいました。

今回の学習で、児童たちは被災した人や支えんする人、復旧工事にたずさわる人、産業を守る人など、たくさんの人々がつながって復興にあたっていることを知りました。このつながりこそが、人が生きていくための支えになることに気付いたのです。人のつながりを学校生活にも生かしていこう、と児童会は「友達のよいところを紹介して、ありがとうの気持ちを伝えよう」という活動を始めました。



子どもたちがまとめたポスター



考えてみよう・調べてみよう

- どんな人たちが、復興を支えていると思いますか。
- 災害で被害を受けた三陸鉄道は、どのようにして復旧・復興したのか調べてみよう。

34 岩手山の自然のめぐみとふん火の歴史

岩手山は、昔から岩手のシンボルとして親しまれてきました。しかし、ときにはきはをむき、ふん火します。そんな岩手山を滝沢第二小学校が学習、調査しています。

岩手山はふん火を繰り返して、いまの形になった

滝沢第二小学校では5年生が岩手山について学びます。近くに網張ビジターセンターがあり、そこに行って学習、調査します。2019(令和元)年は、次のようなことをしました。

火山が森を育て、生き物を育てる

岩手山の周囲では、火山によるたい積物が土を作り、草や木が生え森になり、食物連さによる「生態ピラミッド」ができて上がっています。

大きく育った木や草から木の葉が地面に落ち、この落ち葉が土になり、雨が降ったあと、この土がスポンジのように水をたくわえているのです。



網張ビジターセンターでの学び

岩手山と自然が「緑のダム」として、大切な水を作り出してくれていることを学ぶことができ、「ふるさと山はありがたきかな」(石川啄木)を実感できた体験学習でした。

岩手山ふん火の歴史

岩手山は、今までに何度もふん火したことがある活火山です。

岩手山は25個の火山がくっついて一つになっている複合火山で、西側と東側に分かれ、ふん火による爆発は、西から東へおこります。

記録に残っている一番古いふん火は、1686(江戸時代 貞享3)年の大ふん火です。このときから、1919(大正8)年の水蒸気爆発まで、4回のふん火の記録が残っています。近年では1998(平成10)年～2003(平成15)年にかけての火山性地震、地殻変動が見られ、2007(平成19)年12月に発表されたふん火予報「ふん火警戒レベル1・活火山であることに留意」はいまでも続いています。



岩手山はいまも活火山



調べてみよう

●岩手山がふん火すると、どのような災害が発生するか調べてみよう。

35 風や雨の強さと風水害

強い風による風害と大雨による水害は、日本では主に台風によって起きるため、よく「風水害」とまとめられます。また、水害と土砂災害には深い関連があります。

「強い風」「強い雨」はどのくらいのものか？

(風速のめやす)

天気予報では	平均風速 (m/秒)	影響
やや強い風	10～15	風にむかって歩みにくい。かさがさせない。樹木全体、電線や雨どいがゆれ始める。
強い風	15～20	風にむかって歩けない。こぼれ物が出る。雨戸やシャッターがゆれ、かわらがはがれ始める。
非常に強い風	20～30	何かにつかまらないと立ってられない。木の枝が折れたり、道路標識がたむいたりする。
猛烈な風	30～	樹木が倒れ、電柱や街灯でたおれるものが出る。走行中のトラックが横転する。

風害には、物が飛ばされたり倒れたりするほかに、人や建物・車などへの被害、高波による海岸部や港・船の被害、電線が切れたり電柱が倒れたりして起きる停電や電話の不通、稲が倒れる・果実が落ちるなど農業への被害、飛行機や鉄道の運休などがあります。

風害の原因としては、台風などの発達した低気圧のほか、季節風、竜巻やダウンバースト



ダウンバースト

(積乱雲から吹き降ろす気流が地面にぶつかって水平に噴き出すこと)があります。

天気予報でいう「雨」がどのくらいのものなのかも下の表にまとめました。

水害には、河川の水かさが急激に増して橋が流されたり堤防がこわされたりする洪水、市街地や田畑など流れ込む外水はらん、排水が間に合わず土地・道路・建物が水につかる内水はらん、高潮などがあります。

水害の原因としては、台風などの発達した低気圧や、梅雨前線・秋雨前線による大雨、集中豪雨などがあります。水害が起こるような大雨が降ると地盤がゆるみ、土砂崩れ・がけ崩れ、地すべり、土石流などの土砂災害も起きやすくなります。

(雨量のめやす)

天気予報では	雨量 (mm/時間)	降り方のイメージと影響
やや強い雨	10～20	ザーザーと降る。地面にはねかえった雨で足元がぬれる。屋内でも雨音で会話がしづらい。
強い雨	20～30	どしゃ降り。かさをさしてもぬれる。寝ていても半数以上が雨に気づく。
激しい雨	30～50	バケツをひっくり返したような雨。道路が川のようなになる。
非常に激しい雨	50～80	滝のように降る。かさは役に立たない。水しぶきで視界がわるくなる。
猛烈な雨	80～	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。



調べてみよう

●「強い風」「強い雨」によって発生する災害を調べてみよう。

いきる

かかわる

そなえる

いきる

かかわる

そなえる

36 日本の主な自然災害

し ぜん さい が い

噴火 地震 津波 風水害

① 白鳳南海地震(684(天武天皇13)年)

南海トラフ巨大地震。高知県で津波被害。

② 貞観地震(869(貞観11)年)

最古の三陸津波の記録。死者約1,000人。

③ 仁和地震(887(仁和3)年)

京都で建物倒壊、大阪で津波の記録。

④ 永長地震(1096(嘉保3/永長元)年)

2年2か月後に康和地震も発生。

⑤ 鎌倉大地震(1293(永仁元)年)

関東で死者数千人~2万3,000人以上。

⑥ 明応地震(1498(明応7)年)

房総~紀伊で津波被害。死者4万人以上。

⑦ 慶長地震(1605(慶長9)年)

千葉~九州地方の太平洋岸で津波被害。

⑧ 慶長三陸地震(1611(慶長16)年)

津波で死者数千人。2月前に会津大地震。

⑨ 延宝房総沖地震(1677(延宝5)年)

福島~千葉に津波被害。死者数百人。

⑩ 元禄地震(1703(元禄16)年)

関東大震災と同じ相模トラフ巨大地震。7日後に江戸で大火、死者は20万人以上。

⑪ 宝永地震(1707(宝永4)年)

死者2万人以上。48日後に富士山が噴火。

⑫ 宝暦高田地震(1751(宝暦元)年)

新潟で直下型地震。死者1,100~2,000人。

⑬ 八重山地震津波(1771年(明和8)年)

石垣島で津波被害。死者約1万1,000人。

⑭ 雲仙普賢岳噴火(1792(寛政4)年)

津波発生。死者約1万5,000人。1990(平成2)年にも噴火し火砕流で多数の死者。

⑮ 寛政地震(1793(寛政5)年)

仙台沖で発生。三陸沿岸に津波被害。

⑯ 越後三条地震(1828(文政11)年)

信濃川流域で被害。死者1,400人以上。

⑰ 善光寺地震(1847(弘化4)年)

長野県・新潟県で死者1万人以上。

⑱ 安政の大地震(1854(嘉永7)~1859(安政6)年)

安政東海地震の約32時間後に安政南海地震、翌年には安政江戸地震が発生。

⑲ 濃尾地震(1891(明治24)年)

国内の内陸地震では最大。死者7,273人。

⑳ 明治三陸地震(1896(明治29)年)

ゆれによる被害はなく、津波により死者・行方不明者2万2,000人以上。

㉑ 明治43年関東大水害(1910(明治43)年)

2つの台風による水害。死者・行方不明者1,349人。

㉒ 東北~近畿地方風水害(1917(大正6)年)

台風で死者・行方不明者1,300人以上。

㉓ 関東大震災(1923(大正12)年)

相模トラフ巨大地震。大規模な火災が発生。死者・行方不明者14万2,000人以上。

㉔ 北丹後地震(1927(昭和2)年)

京都府・奈良県で震度5。死者2,925人。

㉕ 昭和三陸地震(1933(昭和8)年)

M8.1の三陸沖巨大地震。津波被害が甚大。死者・行方不明者3,064人。

㉖ 室戸台風(1934(昭和9)年)

暴風・高潮で死者・行方不明者3,036人。

㉗ 鳥取地震(1943(昭和18)年)

鳥取市中心に大きな被害。死者1,083人。

㉘ 昭和東南海地震(1944(昭和19)年)

津波が発生し死者・行方不明者1,223人。戦争中で被害情報がかくされる。

㉙ 三河地震(1945(昭和20)年)

愛知県南部で大きな被害。死者2,306人。

㉚ 枕崎台風(1945(昭和20)年)

秋雨前線との相乗りでほぼ全国的に水害。死者・行方不明者3,756人。

㉛ 昭和南海地震(1946(昭和21)年)

静岡県~九州に津波。死者1,330人。

㉜ カスリン台風(1947(昭和22)年)

記録的豪雨で死者・行方不明者1,930人。

㉝ 福井地震(1948(昭和23)年)

福井平野周辺で被害。死者3,769人。

㉞ 十勝沖地震(1952(昭和27)年)

北海道・東北で津波被害。死者28人。

㉟ 昭和28年西日本水害(1953(昭和28)年)

集中豪雨で死者・行方不明者1,023人。

㊱ 洞爺丸台風(1954(昭和29)年)

青函連絡船洞爺丸が転覆し大惨事に。死者・行方不明者1,761人。

㊲ 狩野川台風(1958(昭和33)年)

前線を刺激し豪雨に。死者・行方不明者1,269人。

㊳ 伊勢湾台風(1959(昭和34)年)

強風と豪雨で死者・行方不明者5,098人。

㊴ チリ地震津波(1960(昭和35)年)

南米チリ沖地震で起きた津波が日本各地に襲来。死者・行方不明者142人。

㊵ 北海道南西沖地震(1993(平成5)年)

津波で死者・行方不明者230人。翌年に北海道東方沖地震が発生。

㊶ 阪神・淡路大震災(1995(平成7)年)

直下型地震。死者の多くは家屋倒壊と火災による。死者・行方不明者6,434人。

㊷ 三宅島噴火(2000(平成12)年)

噴火がくりかえされ全島民が島外避難。

㊸ 平成16年台風23号(2004(平成16)年)

大雨と暴風で死者・行方不明者98人。

㊹ 新潟県中越地震(2004(平成16)年)

観測史上2回目の震度7。死者68人。

㊺ 平成22年豪雪(2010(平成22)年~2011(平成23)年)

東北・北陸・山陰で豪雪。死者131人。

㊻ 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)(2011(平成23)年)

M9.0の巨大地震と津波により大きな被害。死者・行方不明者2万2,288人。

㊼ 平成26年8月豪雨(2014(平成26)年)

2つの台風と前線により広範囲で豪雨。広島市で大規模な土砂災害。死者84人。

㊽ 御嶽山噴火(2014(平成26)年)

国内では戦後最悪の火山災害。死者・行方不明者63人。

㊾ 熊本地震(2016(平成28)年)

最大震度7の地震が4月14日夜と16日未明に発生。死者211人。

㊿ 平成30年北海道胆振東部地震

(2018(平成30)年)
最大震度7を記録。死者42人。道内全域が停電(ブラックアウト)。

令和元年房総半島台風(2019(令和元)年)

千葉県を中心に大きな被害。死者3名、約93万戸が停電。

令和元年東日本台風(2019(令和元)年)

記録的な大雨。死者・行方不明者89人。災害救助法が過去最大の14都県390市区町村に適用。



やってみよう

- 地図で、災害が発生した場所を確認してみよう。

いきる

かわる

そなえる

いきる

かわる

そなえる

37 大きな災害ではライフラインが止まる

電気・ガス・水道、固定電話・携帯電話やインターネットなどの通信手段、道路・鉄道などの交通といったライフラインは、大きな災害のときには止まることがあります。

ライフラインが止まったときのために

●**停電のとき**……明かりとして懐中電灯やマッチとろうそくが必要です。

冷蔵庫はドアの開閉が全くなければ停電後2~3時間は中が冷えた状態で保たれます。あわてて中の食べ物をクーラーボックスに移す必要はありません。災害時にはすばやく正しい情報をえることが必要です。電池や手回し発電で使えるラジオ、携帯電話の予備電池やモバイルバッテリーを用意しておきましょう。エアコンや換気扇も使えませんから、ストーブやコンロを使うときは換気に注意しましょう。

●**ガスが止まったとき**……カセットコンロとコンロ用のボンベがあれば、簡単な煮炊きが可能です。

●**断水のとき**……飲み水については、食べ物とともに3日分(1人1日3L)を用意しておきましょう。

水洗トイレのタンクや風呂おけにためてある水も、トイレを流したり掃除に使ったりと活用できます。

トイレが使えなくなったときのために、携帯トイレがあると便利です。

●**家から避難するときには**……電気製品やガス器具を止め、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓(プロパンガスなら屋外のガスメーターバルブと容器バルブも)を閉めましょう。これは、電気やガスが復旧したときに火災やガスもれが起こらないようにするためです。

携帯電話はつながりにくくなります。皆さんを探しに来た人のために、扉などに避難先、自分や家族の安否を書いたメモをはっておきましょう。



手回しラジオ



3日分の水と食料を用意する

38 正確な情報を得て、デマにまどわされない

防災気象情報、被害状況、支援状況、家族や友人の安否、ライフラインの復旧状況など、災害時には適切な情報収集と、それにもとづいた的確な判断が必要です。

正確な情報を早く入手—ふつうの手段は使えなくなる—

災害時の情報収集手段としては、テレビ、ラジオ、固定電話、携帯電話、インターネット(サイトの閲覧、電子メール、SNSやメッセージアプリをふくむ)、地域の防災無線(防災行政無線や消防救急無線)、災害用伝言サービスなどがあげられます。

東日本大震災の発災時、情報収集手段としてもっとも使われていたのはラジオでした。実際に役に立った情報収集手段としては、発災時はラジオで、時間がたつにつれ行政機関・報道機関のサイト、つまりインターネットが増えていったことがわかっています。停電のときにも使えるラジオの信頼性はとても高いのです。



的確な判断をする—デマにまどわされないために—

災害時は様々な情報が発信されますが、その中にはデマや不確かな情報・古い情報がまざっています。

とくにインターネット上のメールやFacebook、Twitter、LINEなどのSNSは、誰でも情報を発信できるため、災害時の貴重な情報源であるいっぽう、デマなどが短時間で広まる危険性が高いのです。

災害時はみんなあわてていて冷静な判断をすることが難しく、自分に都合のいい情報を信じてしまいやすいのですが、収集した情報に対して「それは本当なのだろうか」と考えてみる視点を持ってください。

その情報が国や自治体、気象庁などからの「一次情報」かどうかを確認しましょう。「～と聞いた」「～と言った」などの伝聞なら、発信元までさかのぼって確認する必要があります。



話し合ってみよう

●ライフラインが止まったとき、どのような対応ができるか話し合ってみよう。



考えてみよう

●正しい情報かどうか、判断に迷ったらどうすればよいでしょうか。

39 さいがい そな 災害に備える 一戸南小学校の取組

さいがい 災害がおきたときに生きのびるにはどうしたらいいだろうか。いちのへ 一戸町立一戸南小学校の取組を紹介します。

なんじょ てんけん ひ難所を点検

一戸南小学校では防災の勉強会で全校にアンケートを実施しました。「家族との集合場所や連絡方法」の質問に、「わからない・思いつかない・決めていない」と答えた子どもたちが約40%もいました。また、各家庭の避難場所については約30%がわかっていませんでした。そこでまず、4か所の避難所を点検することにしました。



トイレは問題ないかな！

の 生き延びるための準備

避難所の点検をふまえて、3日間生き延びるためにどんな備えが必要か話し合った結果、3日分の食べ物、水(水は飲料のため以外にも必要)、水を節約するためにサランラップ(食器を洗う必要がない)、大きなビニール袋、懐中電灯やろうそく、予備の電池、情報収集のために携帯ラジオ、などが挙げられました。その他、家族構成によって必要なものが異なります。小さい子どものいる家庭では、粉ミルク、紙おむつ、介護の必要な高齢者がいる家庭では食べものや薬に気をつけるなど、家庭状況に合わせて準備しなければなりません。

実際に災害になったとき、困らないように普段から備えておき、すぐに持ち出せるようにしておかなければなりません。それぞれ家族みんなで話し合い、準備することが大切です。



非常用飲料水の備蓄

考えてみよう

● 災害がおこったとき、あなたが3日間生きのびるためにどんな備えをしますか。

40 しっかり逃げて、助かってほしい ぼうさいかみしばい 防災紙芝居

「それは、あっちゃんの知っている“真っ暗”とは全くちがった“真っ暗”でした。」

おおふな と つ なみでんしょうかん ぼうさいかみしばい 大船渡津波伝承館の防災紙芝居の1つ『あっちゃんのランドセル』の中のせりふです。あの3月11日の夜、高台から壊滅した街を見下ろした子どもの視点です。



ぼうさいかみしばい じょうえん 防災紙芝居の上演の様子

こわさを知ってもらいたい

東日本大震災のとき、齊藤賢治さんは、津波の犠牲になった人が多くいたことを知ってショックを受け、「津波のこわさを多くの人に知ってもらいたい。」とおおふな と つ なみでんしょうかん 大船渡津波伝承館を立ち上げました。

語り部としての活動を続けていたのですが、子どもたちにとって、自分の話は難しすぎるのではないかと考えた齊藤さんは、紙芝居を思いつきました。被災体験や過去の大津波の伝承などをシナリオにし、イラストレーターの人に絵を描いてもらい、十数本の紙芝居を制作、演者を地元出身の元劇団俳優の人に頼み、子どもたちに津波のこわさを伝えることにしたのです。

みんな、真剣に見入ってくれることが増えました。

現在、よく上演される防災紙芝居は、最初にあげた『あっちゃんのランドセル』のほか、体験をもとにした『命のこいのぼり』『送り盆灯籠』そして1896(明治29)年の明治三陸地震津波のときの三陸町(今の船渡市吉浜・越喜来・綾里地区)を舞台とした『吉浜のおゆき』の4本。どれも「津波のこわさ」と「大きなゆれがあったらすぐに高台に避難」という教を伝えています。

考えてみよう

● 齊藤さんはどんな気持ちで紙芝居を作ったのでしょうか。

41 助けられる人から、助ける人へ

かまいし 釜石東中学校・うのすまい 鵜住居小学校 ぼうさいくんれん 合同防災訓練

「あのとき、子どもたちが助かったことが、どれだけ私たち大人の助けになったことか」——いまだにこう言う釜石の人は多いのです。今も、釜石市立鵜住居小学校と釜石東中学校の児童生徒は先輩たちの意志を受けついでいます。



ぼうさいくんれん 防災訓練で、園児たちの手をひく釜石東中学校の生徒たち

～避難三原則～
 1 想定にとられるな
 2 置かれた状況で 最善を尽くせ
 3 率先避難者となれ
 そして、
 助けられる人から
 助ける人へ

釜石東中学校のろう下に掲示された「避難三原則」の下には「助けられる人から／助ける人へ」の文字がある

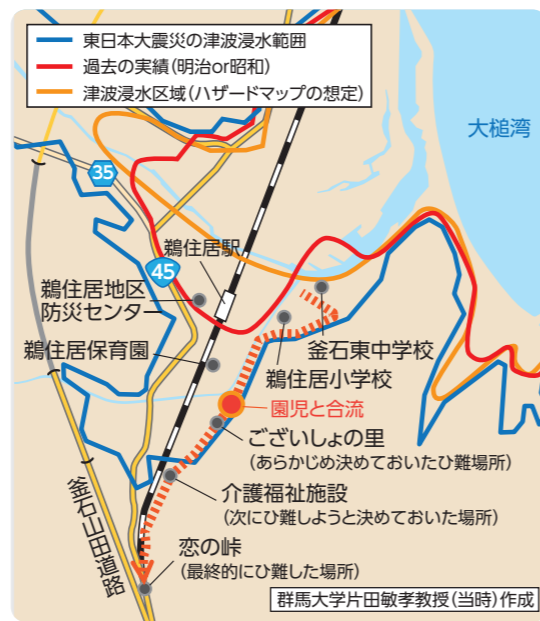
ふだん取り組んでいたことを実践しただけ

2011(平成23)年3月11日14時46分。激しい、そして長い揺れが襲い、釜石東中学校の校庭には地割れができました。

「地割れからふき出す水を見て、逃げなければと直感した。」と当時の中学生。

釜石東中学校と道路をへだてた鵜住居小学校は海岸からわずか数百メートル、当時のハザードマップではぎりぎり津波浸水想定区域の外でしたが、危険を感じた中学生たちは「津波がくるぞ」と叫びながら率先して避難をはじめました。鵜住居小学校の小学生たちも後に続き、途中で行き会った鵜住居保育園の園児たちもいっしょになり、避難所である「ございしよの里」に到着、近所の人々も集まり、総勢600人になりました。

このとき14時55分から15時10分。この場所はがけくずれの危険があったため、みんなは



うのすまい 鵜住居地区の津波浸水範囲

より高い位置にある「やまざきデイサービス」へ再び難することにします。中学生は小学生全員と手をつなぎました。

「4年生くらいの男の子と手をつないで出発した。途中でゴゴゴという音が聞こえた。手をつないだ男の子には『大丈夫だからね』と声をかけながら早足で歩いた。」、当時の中学生の証言です。

15時17分ころ、鵜住居地区を津波が襲い、学校やございしよの里を飲みこみました。中学生たちは高齢者、小さな子を助け、恋の岬を目指して長い坂をかけあがり、津波からの逃げたのです。

このことは「釜石のできごと」として多くの人の感動を呼びましたが、当時の中学生はこう言ったそうです。

「避難は、ふだん取り組んでいたことを実践しただけ。」

受けつがれる合同防災訓練

鵜住居小学校と釜石東中学校では、震災前から何度も合同防災訓練を行っており、それは今でも続いています。

釜石市では、2006(平成18)年から「想定にとられるな」「その状況下において最善を尽くせ」「率先避難者たれ」の津波から命を守る避難三原則に基づいて津波防災教育に取り組んできたのです。

2019(令和元)年に行われた訓練は、震度6強の地震が起こり10メートル以上の大津波警報が発令された想定で実施され、小学生・中学生はそれぞれ敷地内の高い場所に率先避難、その後、中学生は避難者役の小学生や介護老人福祉施設の利用者など約80人を体育館に誘導し、避難所運営を体験しました。

中学生たちは地域の防災の担い手としての自覚を高め、その姿を見て小学生たちは学ぶのです。あのとき、三原則に基づいて行動した先輩たちの意志は、しっかりと受けつがれています。



考えてみよう・調べてみよう

- 困っている人を見かけたとき、あなたは、どんな声をかけますか。
- どうして率先避難が必要なのか調べてみよう。

岩泉町の総合防災訓練には約3,000人、町民の約3割が参加します。どうしてそんなに参加者が多いのでしょうか。



総合防災訓練とともに岩泉町が進めるさまざまな取組。防災士養成研修講座(左)高齢者ひ難のための福祉施設と近くの会社との連携(右上)、情報収集用ドローン(右下)



いかに防災意識を高めるか

1町5か村が合併してできた岩泉町は、元の町村である6地区のそれぞれに自主防災組織があり、地区の防災計画もそれぞれの住民が議論して決めています。総合防災訓練ではどれか1つの地区がメイン会場となり、同時に他の5地区でも防災計画に基づいた訓練を行います。町じゅうが会場だからこそ、参加者が多いのです。

岩泉町が「防災・減災のまち」をめざすきっかけは、2016(平成28)年の台風第10号による被災でした。ひ難所を8か所から52か所に増やし、情報収集用のドローン隊を組織、情報伝達用の衛星電話を自主防災組織に配備するなど、施設や設備の強化を行いました。そして防災意識を高め、防災のリーダーになってもらうため、防災士を育成することにしたのです。

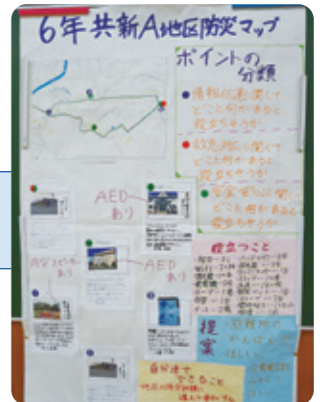
防災士は、自分の命は自分で守る「自助」、助け合って被害拡大を防ぐ「共助」、個人・組織が協力して活動する「協働」を原則として、社会の防災力を高めるための知識・技能をもつ人を認定する資格です。岩泉町では200人の養成を目指し、町長や町議会議員をはじめ多くの町民が養成研修講座を受講、2020(令和2)年1月までに142人が認定されています。いかに防災意識を高めるか。岩泉町はその種をまいているところなのです。



考えてみよう

- これからのひ難訓練に、どのような気持ちで参加しなければならないと思いますか。

八幡平市の平舘小学校では、5年生、6年生が「たいらっこ防災プロジェクト」としてDIG実習を行い、町歩きをし、防災マップを作り、地域の安全を守るために何ができるかを検討しました。



くわしい情報付きの防災マップ

DIG実習による気づき

DIGは「災害想像力ゲーム」の意味で、DIG実習とは、地図を使って地域の水害、浸水、土砂くずれなどの危険を理解し、安全な行動を取ることができるよう訓練することです。

DIG実習で子どもたちは、「自分の家の周りに危険な場所があることを初めて知った。」「逃げる場所や、川の形や大きさを知ることができた。」「学校から帰るときに、もっと危険な場所がないか調べたいと思った。」などの発見をしました。

まちを歩いて防災マップをつくる

初めに、水害が起こった場所、起こりそうな場所を予想しながら道を決め、その後で実際に歩き、地図の上で予想した危険をより具体的に確認することができました。

よく通る道でも、屋根がはがれ、こわれて倒れそうな建物があったり、曲がっている川やふたつの川の水がひとつに集まっている川は、はんらんしやすいことなどが分かりました。

町の調査の後、みんなと情報交換をし、情報カードに整理し、これをもとに防災マップを作りました。

さらに2回目の町歩きを行いました。この時に防災マップを作っていて知りたいと思ったことを確認でき、消防団の団員からは過去のはんらんの様子、現在ははんらんの危険がある川などを教えてもらいました。

これらの防災マップをもとに発表会を開き、「公助や共助など、助け合うということがとても大切だと思った。」「日常のコミュニケーションが共助になる。」などの気づきを共有しました。



調べたことの発表



話し合ってみよう

- ハザードマップから、あなたの地域で考えられる災害について話し合ってみよう。